

公共図書館内の飲食可否に関する利用者の意識
と利用実態及び図書館の周知方法

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2018 年 3 月

河本 毬馨

目次

1 序論	3
1.1 研究背景	3
1.2 研究目的・意義	4
1.3 用語の定義	5
1.4 本論文の構成	5
2 先行研究	6
3 方法	7
3.1 調査対象館・時期	7
3.2 利用者アンケート調査	8
3.3 周知方法観察調査	9
4 結果	9
4.1 利用者アンケートの単純集計	10
4.1.1 図書館の利用方法	11
4.1.2 館内飲食の可否に関する個人的希望	13
4.1.3 館内における望ましい飲食方針	16
4.1.4 資料汚損の経験	19
4.2 利用者アンケートのクロス集計	20
4.2.1 利用者の年代によるクロス集計	20
4.2.2 飲食可能な種類・場所によるクロス集計	28
4.3 飲食方針の周知方法	38
4.3.1 館内掲示・サイン	39
4.3.2 印刷版利用案内	40
4.3.3 図書館ホームページ・SNS	41
5. 考察	41
6. 結論	43
謝辞	43
注・参考文献	44

付録 アンケート票

1 序論

1.1 研究背景

1990 年代、植松¹⁾は高齢化や生涯学習時代、高度情報化社会といった社会的背景と、図書館における土日の家族連れ利用者の増加、開架の大規模化といった図書館側の背景から「滞在型図書館」をこれからの図書館像として提起した²⁾。「滞在型図書館」とは、利用者への資料提供に重きを置いた従来の「貸出型図書館」とは異なり、貸出だけでなく館内閲覧、学習、催し物への参加、子どもへの読み聞かせなど多様な目的を持った利用者が一日中そこに滞在できる居心地のよい図書館である。植松はこのような図書館を目指すためには「図書館の書斎、居間、出会いの場それぞれの機能を洗練化させて、合理的で効率のよい図書館としなければならない」こと、それと同時に「快適で居心地のよい図書館でなければならない」ことを述べている³⁾。機能の洗練化や快適で居心地のよい図書館とするための要素には、例えばパーソナルスペースを考慮した閲覧席や、自由に会話できるスペースの設置などが考えられるが、中でも本研究では利用者の快適さや居心地のよさを向上し長時間の滞在を支援すると思われる「館内飲食」に焦点を当てる。館内飲食の許可は利用者自身による体調管理を助けるだけでなく、図書館を学習の場として利用する利用者の気分転換⁴⁾や、交流スペースとして利用する利用者間のコミュニケーションを円滑にする⁵⁾役割があるかもしれない。従来日本の多くの図書館では館内での飲食は許されていないと言われてきたが、後述するように Kawamoto & Tsuji⁶⁾の調査では、調査館のうち公共図書館の 56.2%、大学図書館の 62.3%が飲み物または食べ物を許可していることを明らかにし、館内飲食が広まりつつあることを示している。

米国では 1990 年代のウェブの登場以来、電子書籍や電子ジャーナルなどのメディアが発達したことで、Lancaster⁷⁾などが建築物としての図書館はいずれ不要になるであろうという「図書館消滅論」を唱え、この議論に対抗する形で図書館の持つ「居場所」としての役割“Library as Place”が考えられるようになった。ウェブ等の影響により経営が苦しくなった書店界においてカフェを併設して利益を得る店が現れた一方で、図書館界でもカフェを併設する図書館や、館内での飲食を許可する図書館が現れ始めている。しかしそうした中でも 2005 年、ルイジアナ州立大学図書館におけるスターバックス設置計画に対し、図書館に静けさを求める学生 100 人以上が抗議し計画を中止させたことが当時ニュースとなっていた⁸⁾。図書館界の傾向として飲食許可館やカフェ設置館が現れてきていたが、利用者は本当に図書館で飲食できる環境を求めているのであろうか。また、飲食を許可している館と禁止している館の利用者間には滞在時間や利用頻度など図書館の利用実態に違いがあるのであろうか。後述するように、これまでの館内飲食に関する研究の調査対象は図書館や図

書館員が多く、利用者の館内飲食に対する意識や飲食の可／不可による利用実態の差異に焦点を当てた調査はほとんどない。

一方、図書館では利用者が認知していないために利用数の低いサービスが度々問題視されてきた。例えば文部科学省⁹⁾の「これからの図書館の在り方検討協力者会議」では図書館の主要なサービスであるレファレンスサービスが不十分な理由として「利用者に知られていないこと」を挙げており、「レファレンスデスクが奥まった場所や2階の参考図書室にあったため、レファレンスサービスの存在を知る利用者が少なく、利用が少なかった」ことを述べている。先述したように従来日本の多くの図書館では館内での飲食は許されていないと言われてきたことから、飲食許可という従来とは異なった方針を新たに打ち出すならば、その方針を利用者に周知させることが重要である。図書館はどのような方法・内容で周知を行っているであろうか。飲食許可に関する周知方法の調査もこれまでほとんど行われてこなかった。後述するように、利用者に対する調査では、比較的多くの利用者が、自分達の図書館が飲食可であることを知らなかった。図書館の周知方法に問題があるとも言え、改善に向けた研究は価値があると思われる。

1.2 研究目的・意義

本研究の目的は、(1)公共図書館における飲食に対する利用者の意識や図書館の利用実態、(2)許可館と不可館間におけるそれらの差異、(3)許可館の飲食方針の周知方法の実態と利用者の飲食方針の認知度、の3つを明らかにすることである。(1)と(2)に関しては、後述するように図書館・図書館員を対象とした館内飲食の方針に関する調査は米国を中心に多数行われてきたが、図書館利用者を対象としたそのような方針に関する意識調査や、許可館と不可館の利用者間での滞在時間などの利用実態の比較はほとんど行われてこなかった。そこで本研究では許可館・不可館の各利用者の飲食方針に対する意識や図書館の利用実態を調査し差異を検討する。加えて、先述したように従来日本の多くの図書館では館内での飲食は許されていないと言われてきたことから、子どもの頃にそのように教わる機会が多かった年代と、近年現れ始めたカフェ併設図書館やブックカフェなどを子どもの頃から見聞きする機会があった年代とでは館内での飲食方針に対する意識が異なるかもしれない。また、許可している館の中でも飲み物のみ許可している館や館内飲食スペースを設置している館など飲食方針は様々であり、それらの違いによっても利用者の飲食方針に対する意識や図書館の利用実態は異なるかもしれない。そこで得られた結果は(a)利用者の年代別、(b)飲食可能な種類・場所別でも集計を行い、差異が顕著に見られる要素を明らかにする。(3)に関しては、先述したように従来日本の多くの図書館では館内での飲食は許されていないと言われてきたことから、飲食許可の方針を打ち出すならばその方針を利用者に周知させることが重要である。しかしながら、後述するように飲食禁止の周知方法に関する研究は散見されるものの、飲食許可の周知方法に関する研究はほとんど行われておらず、現在用いられている周知方法やその内容、これらによる利用者の認知度などは明らかになってい

ない。そこで本研究では各許可館における飲食方針の周知方法と利用者の認知度を調べ、利用者が周知方法に応じて図書館の飲食方針をどの程度認知しているかを明らかにする。

本研究の意義としてはまず、図書館のサービス対象である利用者の館内飲食に関する意識を明らかにすること、許可館・不可館の利用者間での利用実態の変化を明らかにすることにより、図書館のこのような方針転換が利用者の意向から離れていないかを確認することが挙げられる。また、許可館の飲食方針の周知方法を明らかにし利用者の認知度と比較することでより優れた周知方法を提案することもできる。例えば、飲食方針を認知している利用者が多い館では SNS を利用して飲食方針を周知していることが多いことが分かれば、飲食方針の周知に SNS の利用が有効である可能性が示唆される。図書館から利用者に発信する情報は飲食方針に限らないことから、本研究は図書館から発信する他の情報の周知方法を見直す契機となるかもしれない。

本研究では次の 3 つの仮説を立てている。即ち、飲食利用ができる方が利用者にとって利便性が高いと考えられることから、(1)不可館の利用者よりも許可館の利用者の方が図書館の利用が多い、許可館が増えつつあることで「館内飲食禁止は常識である」といった教育が数十年前よりも減少していると考えられることから、(2)中高齢者層よりも若年者層の方が館内飲食に寛容であり飲食希望者も多い、また許可館が増えつつあることから、(3)許可館は飲食方針の周知を掲示やホームページなどで行っており、利用者の認知度も高い、の 3 つである。

1.3 用語の定義

本稿では、以下の用語について下記のように定義し使用する。

[館内]

Book Detection System(BDS)を設置している館においてはその内側の範囲。設置していない館においては原則、貸出処理をしていない資料を持ち歩ける範囲。

[許可館]

館内において飲み物あるいは食べ物を一部の範囲でも許可している図書館。

[不可館]

館内において全面的に飲食を禁止している図書館。

1.4 本論文の構成

本稿は以下のように構成される。まず次の第 2 章で先行研究を紹介する。第 3 章では本研究で用いた手法について述べ、第 4 章で結果を述べる。第 5 章では結果を踏まえた考察を行い、第 6 章で総括する。

2 先行研究

図書館の館内飲食に関する先行研究としては以下のものがある。まず米国では、1990年代の Clement & Scott¹⁰⁾や、Bancroft¹¹⁾の文献などから、もともと館内飲食は資料汚損の観点などから検討課題の一つとされてきたことが分かる。その頃 Soete¹²⁾が行った調査でも大多数の図書館において館内飲食は許されていないことが報告されている。2000年代に入りカフェ併設館などが増加し始めた頃、Cranford¹³⁾の調査では許可館の方が不可館よりも多数を占めており、Reese¹⁴⁾や Gorbe¹⁵⁾、Primary Research Group¹⁶⁾¹⁷⁾などによる「図書館カフェ」を対象とした研究も行われるようになった。一方日本では、JLA 図書館調査事業委員会¹⁸⁾、『薬学図書館』編集委員会¹⁹⁾、寺澤²⁰⁾、Kawamoto & Tsuji²¹⁾などによって館内飲食の方針に関する調査が行われてきており、許可館が年々増加しつつあることが分かっている。ただし、以上の調査は全て図書館を調査対象としており、図書館利用者の館内飲食に対する考えを調べた研究はほとんどない。

許可館・不可館間の差異を検討した先行研究としては Lyons²²⁾のものがある。Lyons は American Library Directory のリストに掲載されている公共図書館を対象として、許可館と不可館にそれぞれの飲食方針の理由や館内飲食のメリット・デメリットをアンケート調査した。許可館が館内飲食を許可することで得られたメリットと不可館が館内飲食を許可した場合に想定するメリットの内容は許可館・不可館ともにほとんど変わらないが、許可館において実際に起こったデメリットと不可館が許可した場合に想定するデメリットに関しては、不可館は許可館の実際のデメリットより多くのデメリットを心配していることを明らかにした。また Lyons は、許可館における館内飲食に由来する汚損は不可館の想定よりもはるかに少ないことを指摘している。ただし、Lyons の調査も図書館を対象とした調査である。

利用者を対象とした飲食に関する先行研究としては、Singh²³⁾のものがある。Singh はカフェを併設しているノースカロライナ大学の附属図書館を利用していた学生を対象にコーヒーを飲む習慣や図書館の利用頻度をアンケート調査し、結果としてコーヒーをよく飲む学生ほど図書館をよく利用するとは言えないことを示した。ただし、この調査は飲み物をコーヒーに限定しており、飲む場所に関しても考慮されていなかった。また、公共図書館では館独自の利用者を対象としたサービス調査を行っていることが多く、近畿大学中央図書館²⁴⁾のように飲食方針に関する質問を行う館もある。このような調査は各館にとって有効であるものの、図書館ごとに設問の文言や選択肢が異なり、許可館と不可館を比較し差異を検討することは困難である。

飲食方針の周知方法に関する研究としては、東槇²⁵⁾や蒲生ら²⁶⁾などによるものがあるが、飲食禁止に関する図書館ポスターの紹介や、飲食を図書館におけるリスクとして扱いマネジメントするマニュアルに関する研究など、主に飲食禁止に関する周知方法を対象としている。また先述した『薬学図書館』編集委員会は飲食ルールの広報手段を調べており、「掲示」「見回り時に注意する」「ホームページ」「館内サイン」の順に多いことを明らかにして

いる。ただし、『薬学図書館』編集委員会の調査では回答館のうち不可館の割合が半数以上であり、許可館の周知方法についてはほとんど分かっていない。

3 方法

本研究では、2つの調査手法を用いる。即ち、(1)アンケート調査、(2)観察調査、である。まず調査対象館の利用者にアンケート調査を行い、次に許可館の主要な周知方法における飲食方針に関する記述の観察調査を行う。以下ではまず調査対象館と調査時期について述べ、次に利用者アンケート調査、周知方法観察調査、の順に説明する。

3.1 調査対象館・時期

本研究の調査対象館に関しては、まず日本図書館協会の Web サイト内「図書館リンク集」²⁷⁾に掲載されている公共図書館のうち、茨城県、東京都、千葉県の市区立図書館から14館を無作為抽出し、館内飲食の方針を調べた。上記の1都2県とした理由は(1)Kawamoto & Tsuji²⁸⁾の研究として筆者が既に調査した図書館がサンプルに多く、そこで得られた各種データを分析に用いることができる、(2)筆者の居住地に比較的近く、アクセスが容易である、などである。調査対象館は表1の通りであり、うち9館が許可館、5館が不可館であった。

表 1. 調査対象館

都道府県	図書館名
東京都	あきる野市中央図書館
	国分寺市立本多図書館
	台東区立中央図書館
	練馬区立光が丘図書館
	東大和市立中央図書館
	日野市立中央図書館
茨城県	常総市立図書館
	土浦市立図書館
	日立市立記念図書館
	守谷中央図書館
	ゆうき図書館
千葉県	印西市立小倉台図書館
	匝瑳市立八日市場図書館
	松戸市立図書館 本館

アンケート調査の実施日は春休み・夏休み期間を除く2017年2月～4月、及び9月～10月の平日のうち、各図書館につき1日とした。周知方法調査は2017年2月～11月に行った。

3.2 利用者アンケート調査

本研究では館内飲食に対する利用者の意識や図書館の利用実態を明らかにするためアンケート調査を行った。調査は実施日に筆者が直接各図書館に赴き、当日利用していた利用者を対象に行った。アンケートは性別・年代が分散するように各図書館 20 名の利用者を選出し回収した。なお、調査は午前中と夕方以降の 2 回に分け、それぞれ 10 名の利用者から回収した。

アンケートの調査項目には Kawamoto & Tsuji²⁹⁾によるアンケート調査や、上岡³⁰⁾によるグループインタビュー調査を適宜修正したものを用いた。なお、調査項目は基本項目の他に許可館、不可館それぞれの利用者に対して追加項目を用意した。具体的な調査項目は以下の通りである。

【基本項目（許可館・不可館共通）】

- (1) 性別
- (2) 年齢
- (3) 職業
- (4) 自宅から図書館までの所要時間
- (5) 図書館の利用頻度
- (6) 図書館の滞在時間
- (7) 来館時の人数
- (8) 来館目的
- (9) 一か月あたりの平均貸出冊数
- (10) 普段の自宅や外出先（図書館を含む）における読書や勉強に伴う飲食頻度
- (11) 館内飲食の許可／不可に対する希望
- (12) 館内で飲食したい飲食物の種類
- (13) 周囲で飲食されたら迷惑な飲食物の種類
- (14) 図書館の館内飲食許可という方針に対する意見
- (15) 飲食スペースに求める要素
- (16) 図書館の居心地に関する満足度
- (17) 過去に館外貸出した図書館資料の汚損経験
- (18) 館外での資料利用時における飲食状況

【許可館追加項目】

- (19) 飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度

【不可館追加項目】

(20) 館内で喉の渇きや空腹を感じた時の対処方法

(21) 飲食が許可された場合の利用頻度

(22) 飲食が許可された場合の滞在時間

後述する周知方法観察調査でも用いる利用者の飲食方針の認知度に関しては、「(19) 飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度」において、選択肢のうち「よく利用する」「たまに利用する」「利用しない」を選択した利用者を「飲食方針を認知している利用者」とし、選択肢のうち「知らなかった」を選択した利用者を「飲食方針を認知していなかった利用者」として各館の利用者の認知度を調査した。なお、アンケートは無記名式である。調査項目は基本的に選択式であるが、自由記述で回答する項目もいくつかある。また、回答によって次の設問が変わることもある。詳細については付録を参照して頂きたい。

結果の分析は先述したように単純集計に加えて(a)利用者の年代によるクロス集計、(b)飲食可能な種類・場所によるクロス集計、を行った。

3.3 周知方法観察調査

次に許可館の飲食方針に関する周知方法観察調査について述べる。本研究では調査対象の各許可館の主要な周知方法における飲食方針に関する記述を調べ、各館の利用者の認知度と比較する。

図書館による周知方法として、本研究では以下の3つを取り上げる。即ち、(1)館内掲示・サイン、(2)印刷版利用案内、(3)図書館ホームページ・SNS、である。これらを選んだ理由は、(a)先述の『薬学図書館』編集委員会³¹⁾の調査で広報手段として多く使われていた、(b)多くの図書館が一般的に作成している基本ツールである、(c)図書館員による発信が容易である、などである。各周知方法における観察項目は、飲食方針に関する記述の(i)内容、(ii)置かれている場所、の2つであり、それぞれの数を調べた。

(1)館内掲示・サインに関しては、アンケート調査日に図書館の敷地内を周回³²⁾し、飲食方針に関する掲示やサインがあればその内容と置かれている場所を調べた。(2)印刷版利用案内では、各館のアンケート調査日に一般用の印刷版利用案内を入手し、飲食方針に関する記述があればその内容と場所を調べた。(3)図書館ホームページ・SNSでは、各館のホームページ・SNS内に飲食方針に関する記述があればその内容と場所を調べた。

結果では、先述した3つの周知方法別に観察項目と認知度を比較する。

4 結果

事前に許可館の飲食方針を調査したところ、表2に示したように4パターンの方針が見られた。

表 2. 許可館の飲食方針のパターンとそれぞれの館数

許可館の飲食方針	館数
全範囲で飲み物のみ許可	2
閲覧席を含む一部で飲み物のみ許可	5
閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物のみ許可	1
館内飲食スペースで飲食許可	3

なお、全範囲で飲み物のみ許可、閲覧席を含む一部で飲み物のみ許可、閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物のみ許可、に関しては蓋付きの飲み物に限定されていた。また、例えば館内の閲覧席では飲み物のみ飲めるようになっており、それに加えて別途館内飲食スペースも設けているといったように複数の飲食ルールを併用している館もあった。

以下では、利用者アンケートの単純集計、利用者アンケートのクロス集計、飲食方針の周知方法、の順で結果を述べる。

4.1 利用者アンケートの単純集計

先述したように、アンケートは調査対象の 14 館、各 20 名の利用者から回収した。具体的には、許可館 9 館 180 名、不可館 5 館 100 名、計 280 名の利用者から回答を得た。得られた回答については、各調査項目の選択肢ごとに選ばれた割合を算出し、それらに関して許可館の利用者と不可館の利用者との間で母比率の差の検定を行い、有意性を検証した。表の“*”，“**”はそれぞれ有意水準 0.05，0.01 で一方より他方の方が多いことを表す。

初めに、許可館の利用者のみに尋ねた (19) 飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度」に関する結果を表 3 に示した。

表 3. 飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度

	N	よく利用する	たまに利用する	利用しない	知らなかった	無回答
許可館	180	9.4%	14.4%	31.1%	42.8%	2.2%

表 3 から、利用している図書館で一部でも飲食が可能であることを「知らなかった」と答えた利用者が 42.8%いることが分かり、許可館において飲食許可の周知が十分に行われていない可能性が示唆された。

本研究の目的に照らして考えると、許可館の利用者と不可館の利用者間の利用実態や意識を比較するためには、許可館の利用者は館内で飲食ができることを少なくとも認識しているべきである。そこで、以降の集計・分析においては、館内飲食が可能であることを「知らなかった」と答えた利用者はサンプルから除外した。除外後の許可館のサンプル数は 103

となった。回答者の基本属性である性別、年代、職業はそれぞれ表 4～表 6 のようになった。

表 4. 回答者の性別

	N	男性	女性
許可館	103	54.4%	45.6%
不可館	100	49.0%	51.0%

表 5. 回答者の年代

	N	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
許可館	103	12.6%	13.6%	11.7%	10.7%	11.7%	18.4%	21.4%
不可館	100	18.0%	13.0%	20.0%	15.0%	8.0%	16.0%	10.0%

表 6. 回答者の職業

	N	会社員・ 公務員	自営業	パート・ アルバイト	専業主婦	学生	無職	その他	無回答
許可館	103	12.6%	10.7%	12.6%	11.7%	20.4%	26.2%	4.9%	1.0%
不可館	100	18.0%	7.0%	14.0%	15.0%	20.0%	19.0%	4.0%	3.0%

3 章 1 節で述べたように本研究では、性別・年代が分散するように利用者を選出しアンケートを依頼したが、表 4 では例えば、許可館の回答者は男性の割合が若干高く、表 5 では 60 歳以上の高齢者の割合が高いことが分かる。これは上記のサンプル除外の影響である。

以下では、(1)図書館の利用方法、(2)館内飲食の可否に関する個人的希望、(3)館内における望ましい飲食方針、(4)資料汚損の経験、の順に結果を述べる。

4.1.1 図書館の利用方法

本項では、(a)自宅から図書館までの所要時間、(b)利用頻度、(c)滞在時間、(d)来館時の人数、(e)来館目的、(f)一か月の平均貸出冊数、の順に結果を述べる。

まず、(a)について述べる。許可館、不可館の利用者における自宅から図書館までの所要時間は表 7 のようになった。

表 7. 自宅から図書館までの所要時間

	N	10分未満	10分～30分未満	30分～1時間未満	1時間以上
許可館	103	33.0%	51.5%	13.6%	1.9%
不可館	100	29.0%	49.0%	16.0%	6.0%

表 7 から、自宅から図書館まで 30 分未満で到着する利用者の割合は許可館で 84.5% (=33.0%+51.5%)、不可館で 78.0% (=29.0%+49.0%) であること、1 時間以上かかる利用者は許可館で 1.9%、不可館で 6.0%であることから、許可館の方が図書館まで時間的にアクセスしやすい利用者の利用が多いことが分かる。また、(b)利用頻度は表 8 のようになった。

表 8. 図書館の利用頻度

	N	ほぼ毎日	週2～3回程度	週1回程度	月2～3回程度	月1回程度	年に数回程度	今回が初めて
許可館	103	9.7%	26.2%	23.3%	26.2%	7.8%	4.9%	1.9%
不可館	100	8.0%	25.0%	19.0%	24.0%	9.0%	13.0%	2.0%

表 8 から、週 1 回以上図書館を利用する利用者の割合は許可館で 59.2% (=9.7%+26.2%+23.3%)、不可館で 52.0% (=8.0%+25.0%+19.0%) であることが分かり、有意差は認められなかったものの前者の方が高かった。また年に数回程度利用する利用者の割合は許可館で 4.9%、不可館で 13.0%であり、有意水準 0.05 で後者の方が高かったことから、許可館の利用者の方が高頻度で利用していることが分かる。さらに、(c)図書館での滞在時間に関しては表 9 のようになった。

表 9. 図書館の滞在時間

	N	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間以上	その他	無回答
許可館	103	16.5%	28.2%	25.2%	28.2%	1.0%	1.0%
不可館	100	16.0%	41.0%	22.0%	21.0%	0.0%	0.0%

表 9 から、図書館に 30 分～1 時間未満滞在する利用者の割合は許可館で 28.2%、不可館で 41.0%であり、有意水準 0.05 で後者の方が高かったことが分かる。さらに、1 時間以上滞在する利用者の割合は許可館で 53.4% (=25.2%+28.2%)、不可館で 43.0% (=22.0%+21.0%) であり、有意差は認められなかったものの前者の方が高く、許可館の利用者の方が長時間滞在していることが分かる。(d)来館時の人数を尋ねた結果は表 10 のようになった。

表 10. 来館時の人数³³⁾

	N	1人	2人	3人以上	その他	無回答
許可館	103	89.3%**	7.8%	5.8%	0.0%	0.0%
不可館	100	76.0%	22.0%**	5.0%	0.0%	1.0%

表 10 から、1 人で来館することが許可館で 89.3%、不可館で 76.0%と最も多いこと、不可館に関しては 2 人で来館する利用者の割合も 22.0%であり、許可館の 7.8%を大きく上回っていることが分かる。また、1 人での来館は許可館の方が不可館よりも有意水準 0.01 で高く、2 人での来館は不可館の利用者の方が許可館よりも有意水準 0.01 で高かった。ただし、

飲食不可が来館時の人数を増加させる要因であるという可能性に関しては、次節で詳しく検討する。

(e)来館目的、(f)一か月あたりの平均貸出冊数に関しては許可館・不可館の利用者間に大きな差異はなかった。スペースの関係上表は割愛するが、来館目的で多かったものは順に、(1)貸出：許可館 49.5%，不可館 55.0%，(2)勉強：許可館 29.1%，不可館 32.0%，(3)閲覧：許可館 25.2%，不可館 30.0%，であった。一か月の平均貸出冊数で多かったものは順に、(1)1～5 冊：許可館 40.8%，不可館 46.0%，(2)0 冊：許可館 25.2%，不可館 22.0%，(3)6～10 冊：許可館 18.4%，不可館 12.0%，であった。

4.1.2 館内飲食の可否に関する個人的希望

本項では、(a)自宅や図書館を含む外出先における読書や勉強に伴う飲食頻度、(b)飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度（許可館）、(c)館内で喉の渇きや空腹を感じた時の対処方法（不可館）、(d)館内飲食の許可／不可に対する希望とその理由、(e)館内で飲食したい飲食物の種類、(f)周囲で飲食されたら迷惑な飲食物の種類、の順に結果を述べる。

初めに(a)自宅や図書館を含む外出先における読書や勉強に伴う飲食頻度について尋ねたところ、表 11 のようになった。

表 11. 自宅や図書館を含む外出先における読書や勉強に伴う飲食頻度

	N	よくある	たまにある	どちらでもない	あまりない	全くない	その他	無回答
許可館	103	25.2%	31.1%	3.9%*	18.4%	20.4%	0.0%	1.0%
不可館	100	18.0%	37.0%	0.0%	26.0%	19.0%	0.0%	0.0%

表 11 より、飲食をすることが「よくある」「たまにある」と答えた利用者の割合は許可館で 56.3% (=25.2%+31.1%)、不可館で 55.0% (=18.0%+37.0%) であり、許可館・不可館の利用者間に大きな差異はなかった。ただし、「よくある」と答えた利用者の割合は許可館で 25.2%，不可館で 18.0%であり、有意差は見られなかったものの許可館の利用者の方が普段の飲食頻度が高い傾向がある。

次に(b)飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度について述べる。飲食頻度の高い許可館の利用者だが、先述した表 2 の飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度から「知らなかった」利用者を除外すると表 12 のようになる。

表 12. 飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度（知らなかった利用者除外版）

	N	よく利用する	たまに利用する	利用しない	無回答
許可館	103	16.5%	25.2%	54.4%	3.9%

表 12 から、「よく利用する」「たまに利用する」利用者の割合は 41.7% (=16.5%+25.2%)、「利用しない」利用者の割合は 54.4%であることが分かり、「利用しない」利用者の方が多

かった。どのような年代の利用者、どのような許可館を利用している利用者が飲食利用する傾向にあるのかに関しては、次節で詳しく分析する。

次に(c)館内で喉の渇きや空腹を感じた時の対処方法についての結果を表 13 に示した。

表 13. 館内で喉の渇きや空腹を感じた時の対処方法

	N	館外に出て持参物を飲食する	近くの飲食店に行く	家に帰る	ご飯時は避けて図書館に行く	我慢する	館内でこっそり飲食する	その他
不可館	100	36.0%	21.0%	26.0%	14.0%	28.0%	6.0%	4.0%

表 13 から、多かった対処方法は順に、(1)一度館外に出て飲食する：36.0%，(2)我慢する：28.0%，(3)家に帰る：26.0%，であった。「我慢する」と回答した利用者が 28.0%と 2 番目に多く、利用者の健康面が懸念される一方、「家に帰る」と答えた利用者も 26.0%いた。先述した図書館での滞在時間の結果では、不可館の利用者の方が滞在時間は比較的短い傾向があったが、飲食をするためには館外に出る必要があることが利用者の帰宅を助長させるのかもしれない。

次に(d)利用者の館内飲食の許可／不可に対する希望とその理由について述べる。利用者の希望は、表 14 のようになった。

表 14. 館内飲食の許可／不可に対する希望

	N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	飲食どちらも許可して欲しくない	その他	無回答
許可館	103	18.4%	49.5%*	0.0%	28.2%	2.9%	1.0%
不可館	100	21.0%	34.0%	0.0%	33.0%	11.0%*	1.0%

表 14 から、飲み物あるいは食べ物のどちらか一方でも許可して欲しい利用者の割合は、許可館で 67.9% (=18.4%+49.5%)，不可館で 55.0% (=21.0%+34.0%) であり，許可館・不可館ともに過半数を超える利用者が館内での飲食を希望していることが分かる。特に「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合は許可館で 49.5%であり，不可館の 34.0%よりも有意水準 0.05 で高かった。「飲食どちらも許可して欲しくない」利用者の割合は許可館で 28.2%，不可館で 33.0%とどちらも全体の 3 割程度であった。これらを選択した理由として，まず飲み物あるいは食べ物を許可して欲しい利用者に理由を尋ねた結果を表 15 に示した。

表 15. 館内飲食許可の希望を選択した理由

	N	眠気を抑えるため	リラックスするため	熱中症を予防するため	喉の渇きを癒すため	空腹を満たすため	理由はない	その他	無回答
許可館	73	16.4%*	32.9%	15.1%	68.5%	20.5%	0.0%	4.1%	4.1%
不可館	66	3.0%	33.3%	9.1%	65.2%	24.2%	1.5%	4.5%	10.6%

表 15 から、特に多かった理由は許可館・不可館の利用者ともに、(1)喉の渴きを癒すため：許可館 68.5%，不可館 65.2%，(2)リラックスするため：許可館 32.9%，不可館 33.3%，(3)空腹を満たすため：許可館 20.5%，不可館 24.2%，であった。許可館・不可館の利用者間で差異が大きかったものとしては「眠気を抑えるため」が許可館で 16.4%，不可館で 3.0%，「熱中症を予防するため」が許可館で 15.1%，不可館で 9.1%などがあり，どちらも許可館の利用者の方が多く，実際に飲食経験がある利用者が感じているメリットが反映された可能性がある。熱中症の防止は利用者の健康面を配慮する意味で重要視されるべきである。また，館内での居眠りに関しては利用者の迷惑行為・防犯対策として禁止されることがあり，この防止という意味でも館内飲食が有効である可能性がある。「飲食どちらも許可して欲しくない」利用者には自由記述欄を設けて理由を尋ねた。許可館で 45 名，不可館で 31 名の回答があり，許可館では特に，(1)資料や館内の汚損：23 件，(2)飲食による音：8 件，(3)図書館の目的との相違：7 件，などに関する懸念を表す回答が多かった。一方不可館では，(1)資料や館内の汚損：20 件，(2)図書館の目的との相違，利用者マナーの悪化，飲食によるにおい：各 4 件，などの回答が多かった。

次に(e)館内で飲食したい飲食物と(f)周囲で飲食されたら迷惑だと感じる飲食物の結果は表 16，表 17 のようになった。

表 16. 館内で飲食したい飲食物の種類

	N	水	お茶類	コーヒー	ジュース	エナジー系 ドリンク	お菓子 (一口サイズ)	お菓子 (一口で食べ きれない サイズ)	おにぎり やパンな どの軽食	一食分の 料理，弁 当	特になし	その他	無回答
許可館	103	40.8%	44.7%	35.0%	14.6%	6.8%	19.4%	6.8%	14.6%	3.9%	18.4%	1.0%	5.8%
不可館	100	34.0%	43.0%	36.0%	14.0%	4.0%	17.0%	4.0%	16.0%	4.0%	15.0%	0.0%	12.0%

表 17. 周囲で飲食されたら迷惑な飲食物の種類

	N	水	お茶類	コーヒー	ジュース	エナジー系 ドリンク	お菓子 (一口サイズ)	お菓子 (一口で食べ きれない サイズ)	おにぎり やパンな どの軽食	一食分の 料理，弁 当	特になし	その他	無回答
許可館	103	5.8%	3.9%	5.8%	4.9%	5.8%	22.3%*	43.7%	45.6%	45.6%	24.3%	7.8%	2.9%
不可館	100	2.0%	3.0%	10.0%	6.0%	5.0%	11.0%	51.0%	36.0%	51.0%	20.0%	5.0%	7.0%

表 16 から，利用者が最も飲食したいものはお茶類で，その割合は許可館 44.7%，不可館 43.0%であったが，次に飲食したいものは許可館では水 40.8%，不可館ではコーヒー 36.0%と異なっている。表 17 から，利用者が最も迷惑だと感じるものに関しては，許可館では軽食，一食分の料理や弁当それぞれ 45.6%，不可館では一口で食べきれないサイズのお菓子，一食分の料理や弁当それぞれ 51.0%であり差異が見られた。また，一口サイズのお菓子を迷惑と感じる利用者の割合は許可館で 22.3%であり不可館の 11.0%よりも有意水準 0.05 で高かった。

4.1.3 館内における望ましい飲食方針

本項では、(a)図書館の館内飲食方針に対する意見、(b)飲食スペースに求める要素、(c)飲食が許可された場合の利用頻度と滞在時間（不可館）、(d)図書館の居心地に関する満足度、の順に結果を述べる。

まず、(a)図書館での飲食方針に関して、利用者の飲み物の方針に対する意見を表 18、食べ物の方針に対する意見を表 19 に示した。

表 18. 飲み物の方針に対する意見

	N	全範囲で飲めるようにした方が良い	一部の範囲で飲めるようにした方が良い	飲めるようにするのは禁止した方が良い	その他	無回答
許可館	103	27.2%	58.3%	10.7%	1.9%	1.9%
不可館	100	18.0%	68.0%	12.0%	1.0%	1.0%

表 19. 食べ物の方針に対する意見

	N	全範囲で食べられるようにした方が良い	一部の範囲で食べられるようにした方が良い	食べられるようにするのは禁止した方が良い	その他	無回答
許可館	103	6.8%	54.4%	32.0%	2.9%	3.9%
不可館	100	4.0%	57.0%	33.0%	2.0%	4.0%

表 18 から、許可館の利用者の 85.5% (=27.2%+58.3%)、不可館の利用者の 86.0% (=18.0%+68.0%) が「館内で飲み物を許可した方が良い」という意見を持ち、中でも「館内の一部の範囲で飲めるようにした方が良い」が多く、許可館で 58.3%、不可館で 68.0% であった。表 19 から、許可館の利用者の 61.2% (=6.8%+54.4%)、不可館の利用者の 61.0% (=4.0%+57.0%) が「館内で食べ物を許可した方が良い」という意見を持っていた。中でも「館内の一部の範囲で食べられるようにした方が良い」が多く、許可館で 54.4%、不可館で 57.0% であった。方針に対する意見として許可館・不可館の利用者間に大きな差異はなかったが、表 14 に示した館内飲食の許可／不可に対する希望の結果との間に違いが見られる。例えば、表 14 から「飲食どちらも許可して欲しい」利用者の割合は許可館で 18.4%、不可館で 21.0% であり、「食べ物だけ許可して欲しい」利用者は許可館・不可館ともにいなかったが、表 19 の館内での食べ物の方針に対する意見では、先述のように許可館・不可館ともに 6 割以上の利用者が「館内で食べ物を許可した方が良い」という意見であった。これらの結果の差異は「館内飲食の許可／不可に対する希望」の設問文に対する選択項目に「一部の範囲で許可して欲しい」という項目を設けなかったために起きたと考えられる。この点に関しては今後の課題とする。

次に(b)飲食スペースに求める要素に関しては表 20、表 21 のような結果となった。

表 20. 飲食スペースに求める要素（許可館）

許可館		要素への評価						
		N	5	4	3	2	1	無回答
飲食スペースに求める要素	広さ	103	12.6%	21.4%	37.9%	4.9%	7.8%	15.5%
	清潔さ		48.5%	23.3%	10.7%	1.0%	4.9%	11.7%
	十分な座席		26.2%	25.2%	18.4%	5.8%	6.8%	17.5%
	賑やかさ		0.0%	4.9%	19.4%	19.4%	39.8%	16.5%
	書架スペースとの区分け		38.8%	19.4%	15.5%	4.9%	5.8%	15.5%
	飲み物の自動販売機		17.5%	24.3%	29.1%	5.8%	10.7%	12.6%
	食べ物の自動販売機		2.9%	10.7%	20.4%	15.5%	34.0%	16.5%
	カフェなどによる飲食提供		7.8%	10.7%	27.2%	13.6%	24.3%	16.5%

表 21. 飲食スペースに求める要素（不可館）

不可館		要素への評価						
		N	5	4	3	2	1	無回答
飲食スペースに求める要素	広さ	100	17.0%	14.0%	42.0%	9.0%	6.0%	12.0%
	清潔さ		56.0%	21.0%	10.0%	1.0%	3.0%	9.0%
	十分な座席		29.0%	22.0%	28.0%	5.0%	5.0%	11.0%
	賑やかさ		5.0%	4.0%	16.0%	21.0%	42.0%	12.0%
	書架スペースとの区分け		44.0%	16.0%	22.0%	5.0%	3.0%	10.0%
	飲み物の自動販売機		32.0%	14.0%	30.0%	6.0%	5.0%	13.0%
	食べ物の自動販売機		10.0%	8.0%	24.0%	15.0%	29.0%	14.0%
	カフェなどによる飲食提供		15.0%	16.0%	30.0%	10.0%	18.0%	11.0%

この設問では、飲食スペースを構成する「広さ」などの各要素に対して「とても強く求める」を表す「5」から「全く求めない」を表す「1」の間の5段階での評価を求めた。表 20、表 21 から、「とても強く求める」「求める」を表す「5」「4」を選択した利用者が多かった要素としては、許可館・不可館ともに(1)清潔さ：許可館 71.8% (=48.5%+23.3%)、不可館 77.0% (=56.0%+21.0%)、(2)書架スペースとの区分け：許可館 58.2% (=38.8%+19.4%)、不可館 60.0% (=44.0%+16.0%)、(3)十分な座席：許可館 51.4% (=26.2%+25.2%)、不可館 51.0% (=29.0%+22.0%) であった。飲食提供に関する要素の観点からは、許可館よりも不可館の方がこれを求める利用者が多いことが分かる。例としては「飲み物の自動販売機」を「5」または「4」とした利用者の割合が許可館で 41.8% (=17.5%+24.3%) なのに対し不可館では 46.0% (=32.0%+14.0%) であることや、「カフェなどによる飲食提供」を求める

利用者の割合は許可館で 18.5% (=7.8%+10.7%) なのに対し不可館では 31.0% (=15.0%+16.0%) であり、カフェに関しては表には示していないが有意水準 0.05 で不可館の方が高いことなどが挙げられる。

不可館のみに尋ねた、(c)飲食が許可された場合の利用頻度と滞在時間の変化は表 22、表 23 のようになった。

表 22. 飲食が許可された場合の利用頻度

	N	とても増えると思う	増えると思う	変わらないと思う	減ると思う	とても減ると思う	わからない	その他	無回答
飲み物許可	100	5.0%	16.0%	69.0%	2.0%	0.0%	6.0%	0.0%	2.0%
食べ物許可	100	7.0%	9.0%	64.0%	7.0%	2.0%	8.0%	0.0%	3.0%

表 23. 飲食が許可された場合の滞在時間

	N	とても増えると思う	増えると思う	変わらないと思う	減ると思う	とても減ると思う	わからない	その他	無回答
飲み物許可	100	9.0%	30.0%	51.0%	1.0%	1.0%	6.0%	0.0%	2.0%
食べ物許可	100	7.0%	22.0%	54.0%	5.0%	2.0%	6.0%	1.0%	3.0%

表 22 より、「とても増えると思う」「増えると思う」と答えた利用者の割合が飲み物許可の場合は 21.0% (=5.0%+16.0%)、食べ物許可の場合は 16.0% (=7.0%+9.0%) いることが分かる。また表 23 より、飲み物許可の場合は「とても増えると思う」「増えると思う」と答えた利用者の割合が 39.0% (=9.0%+30.0%)、食べ物許可の場合は 29.0% (=7.0%+22.0%) いることが分かり、館内飲食は利用者の図書館利用頻度よりも滞在時間を増やすことに対して有効である可能性が比較的高いと思われる。

次に(d)図書館の居心地に関する満足度としては、表 24 のようになった。

表 24. 図書館の居心地に関する満足度

	N	大変満足	おおむね満足	どちらでもない	おおむね不満	大変不満	わからない	その他	無回答
許可館	103	31.1%*	50.5%	14.6%*	1.9%	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%
不可館	100	20.0%	66.0%*	7.0%	1.0%	0.0%	3.0%*	0.0%	3.0%

表 24 より、「大変満足」「おおむね満足」を選んだ利用者の割合は許可館で 81.6% (=31.1%+50.5%)、不可館で 86.0% (=20.0%+66.0%) であり、不可館の方が満足を感じている利用者が多いが、「大変満足」を選んだ利用者の割合は許可館で 31.1%、不可館で 20.0%であり有意水準 0.05 で許可館の方が高く、許可館の利用者の方が満足度は高いことが分かる。

4.1.4 資料汚損の経験

本項では、(a)過去に館外貸出した図書館資料の汚損経験とその理由、(b)館外での資料利用時における飲食状況、の順に結果を述べる。

まず、(a)利用者が館外において貸出した図書館資料を汚損した経験とその理由に関する結果は表 25、表 26 のようになった。

表 25. 過去に館外貸出した図書館資料の汚損経験

	N	利用できなくなるほど汚したことがある	利用できるが多少汚したことがある	利用したことはあるが汚したことはない	館外で資料を利用しない	わからない	その他	無回答
許可館	103	1.0%	11.7%	68.0%	12.6%	1.9%	1.0%	3.9%
不可館	100	3.0%	14.0%	58.0%	12.0%	4.0%	0.0%	9.0%

表 26. 資料汚損の理由

	N	飲食しながら利用していた	雨などで濡れてしまった	カバンと一緒に入っていた飲食物が漏れてしまった	子供やペットなど第三者に汚された	近くに置いていた飲食物を倒してしまった	ペンなどで誤って書き込んだ	故意に行った	その他	無回答
許可館	14	7.1%	42.9%	7.1%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	21.4%	21.4%
不可館	17	11.8%	41.2%	11.8%	29.4%	11.8%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%

表 25 から、館外で資料を「利用したことはあるが、汚したことはない」と答えた利用者の割合は許可館で 68.0%、不可館で 58.0%であることが分かる。資料を「利用できなくなるほど汚してしまったことがある」と答えた利用者の割合は許可館で 1.0%、不可館で 3.0%、「利用できなくなるほどではないが、多少汚してしまったことがある」と答えた利用者の割合は許可館で 11.7%、不可館で 14.0%であり、汚損経験のある利用者はあまり多くないことが分かる。さらに表 26 から、最も多かった理由は「雨などで濡れてしまった」と答えた利用者の割合が許可館で 42.9%、不可館で 41.2%であり、不可館では「子供やペットなど第三者に汚されてしまった」も 29.4%と比較的高い割合であることが分かる。一方、飲食に関する理由である「飲食しながら利用していた」「カバンの中に資料と飲食物を一緒に入っていたら飲食物が漏れてしまった」「資料を飲食物の近くに置いていて誤って倒してしまった」と答えた利用者の割合はそれぞれ同様に許可館で 7.1%、不可館で 11.8%であることが分かる。以上から、資料を利用する際の汚損原因としては雨や第三者によるものが多いこと、利用時に飲食を伴うことによるものはあまり多いとは言えず、許可館・不可館の利用者間に大きな差異も見られなかったことが示された。

次に(b)利用者が館外で資料を利用する際に飲食を伴う頻度は表 27 のようになった。

表 27. 館外で資料を利用する際に飲食を伴う頻度

	N	よくある	たまにある	どちらでもない	あまりない	全くない	その他	無回答
許可館	103	7.8%	18.4%	1.9%	27.2%	37.9%	0.0%	6.8%
不可館	100	7.0%	20.0%	5.0%	32.0%	31.0%	0.0%	5.0%

表 27 から、「よくある」「たまにある」と答えた利用者の割合は許可館ではそれぞれ 7.8%, 18.4%, 不可館では 7.0%, 20.0%であり, 許可館・不可館ともに 3 割弱の利用者が館外で資料を利用しながら飲食することがあることが分かる。「よくある」「たまにある」と答えた利用者にはその際に資料を汚さないように気を付けているかを尋ねたところ表 28 のようになり, 許可館の利用者の割合は「とても気を付けている」が 66.7%であったのに対し, 不可館の利用者では「少し気を付けている」が 59.3%と多く, 許可館・不可館の利用者間に差異が見られた³⁴⁾。

表 28. 館外で飲食しながら資料を利用する際の資料汚損への注意

	N	とても気を付けている	少し気を付けている	あまり気にしていない	全く気にしていない	わからない	その他
許可館	27	66.7% <input type="checkbox"/> *	33.3% <input type="checkbox"/>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不可館	27	40.7% <input type="checkbox"/>	59.3% <input type="checkbox"/> *	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

4.2 利用者アンケートのクロス集計

本研究ではアンケート結果をより詳しく検討するためクロス集計を行った。具体的には(1)利用者の年代, (2)図書館において飲食可能な種類・場所, の 2 つの変数を取り上げ, クロス集計を行った。以下では(1)利用者の年代によるクロス集計, (2)飲食可能な種類・場所によるクロス集計, の順に興味深い結果が得られたものについて述べる。

4.2.1 利用者の年代によるクロス集計

本項では, 回答者の年代と各調査項目とのクロス集計の結果を述べる。得られた回答については, 各調査項目の選択肢ごとに選ばれた割合を算出し, それらに関してある年代 N と N 以外の全年代との間で母比率の差の検定を行い, 有意性を検証した。また, 各年代の許可館・不可館の利用者間でも同様の検定を行った。以下では(1)図書館の利用方法, (2)館内飲食に関する希望や意見, の順で結果を述べる。

4.2.1.1 図書館の利用方法

図書館の利用方法では(a)利用頻度, (b)滞在時間, (c)来館時の人数, の順に結果を述べる。まず, (a)利用頻度と回答者の年代をクロス集計した結果は表 29 のようになった。

表 29. 図書館の利用頻度と回答者の年代のクロス集計

		図書館の利用頻度							
		N	ほぼ毎日	週2～3回程度	週1回程度	月2～3回程度	月1回程度	年数回程度	今回が初めて
年代	全体	203	8.9%	25.6%	21.2%	25.1%	8.4%	8.9%	2.0%
	許可館	13	15.4%	23.1%	23.1%	30.8%	0.0%	0.0%	7.7%
	不可館	18	0.0%	44.4%	11.1%	11.1%	5.6%	27.8%*	0.0%
	10代	31	6.5%	35.5%	16.1%	19.4%	3.2%	16.1%	3.2%
	許可館	14	7.1%	28.6%	21.4%	21.4%	0.0%	21.4%	0.0%
	不可館	13	15.4%	15.4%	30.8%	23.1%	0.0%	15.4%	0.0%
	20代	27	11.1%	22.2%	25.9%	22.2%	0.0%*	18.5%*	0.0%
	許可館	12	0.0%	33.3%	25.0%	16.7%	16.7%	8.3%	0.0%
	不可館	20	0.0%	30.0%	20.0%	30.0%	15.0%	5.0%	0.0%
	30代	32	0.0%*	31.3%	21.9%	25.0%	15.6%	6.3%	0.0%
	許可館	11	0.0%	9.1%	27.3%	36.4%	18.2%	9.1%	0.0%
	不可館	15	0.0%	33.3%	6.7%	33.3%	13.3%	6.7%	6.7%
	40代	26	0.0%*	23.1%	15.4%	34.6%	15.4%	7.7%	3.8%
	許可館	12	16.7%	16.7%	33.3%	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%
	不可館	8	12.5%	0.0%	37.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	50代	20	15.0%	10.0%*	35.0%	30.0%	5.0%	5.0%	0.0%
	許可館	19	10.5%	36.8%	21.1%	15.8%	10.5%	0.0%	5.3%
	不可館	16	12.5%	18.8%	18.8%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%
	60代	35	11.4%	28.6%	20.0%	20.0%	11.4%	5.7%	2.9%
	許可館	22	13.6%	27.3%	18.2%	36.4%	4.5%	0.0%	0.0%
	不可館	10	30.0%	10.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
	70歳以上	32	18.8%*	21.9%	18.8%	28.1%	6.3%	3.1%	3.1%

表 29 から、ほぼ毎日利用する利用者の割合は 70 歳以上の高齢者が 18.8%であり、他の年代よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。30 代、40 代の働き手が多い年代ではほぼ毎日と答えた利用者はいなかった。また、20 代は年数回程度利用する利用者の割合が 18.5%で他の年代よりも有意水準 0.05 で高い。10 代で年数回程度利用する利用者は許可館ではなかったのに対し、不可館では 27.8%おり有意水準 0.05 で高い。加えて 10 代ではほぼ毎日利用する利用者に関しても不可館ではなかったのに対し許可館で 15.4%であったことから、不可館よりも許可館の利用者の方が 10 代の利用頻度が比較的高いことが分かる。

次に、(b)滞在時間と回答者の年代をクロス集計した結果は表 30 のようになった。

表 30. 図書館の滞在時間と回答者の年代のクロス集計

		図書館の滞在時間						
		N	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 2時間未満	2時間以上	その他	無回答
年 代	全体	203	16.3%	34.5%	23.6%	24.6%	0.5%	0.5%
	許可館	13	0.0%	7.7%	30.8%	61.5%	0.0%	0.0%
	不可館	18	5.6%	16.7%	33.3%	44.4%	0.0%	0.0%
	10代	31	3.2% *	12.9% **	32.3%	51.6% **	0.0%	0.0%
	許可館	14	7.1%	21.4%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%
	不可館	13	7.7%	23.1%	38.5%	30.8%	0.0%	0.0%
	20代	27	7.4%	22.2%	33.3%	37.0%	0.0%	0.0%
	許可館	12	33.3%	16.7%	25.0% *	25.0%	0.0%	0.0%
	不可館	20	30.0%	50.0% *	5.0%	15.0%	0.0%	0.0%
	30代	32	31.3% **	37.5%	12.5%	18.8%	0.0%	0.0%
	許可館	11	0.0%	36.4%	27.3%	27.3%	9.1%	0.0%
	不可館	15	20.0%	40.0%	26.7%	13.3%	0.0%	0.0%
	40代	26	11.5%	38.5%	26.9%	19.2%	3.8%	0.0%
	許可館	12	8.3%	33.3%	16.7%	41.7% *	0.0%	0.0%
	不可館	8	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	50代	20	10.0%	40.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	許可館	19	26.3%	42.1%	31.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	不可館	16	6.3%	68.8%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	60代	35	17.1%	54.3% **	22.9%	5.7% **	0.0%	0.0%
	許可館	22	27.3%	31.8%	18.2%	18.2%	0.0%	4.5%
	不可館	10	30.0%	40.0%	10.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	32	28.1% *	34.4%	15.6%	18.8%	0.0%	3.1%

表 30 から、2 時間以上滞在する 10 代の割合は 51.6%であり他の年代よりも有意水準 0.01 で高いことが分かる。さらに、4 章 1 節では 1 時間以上滞在する利用者は不可館よりも許可館の方が多いことを述べたが、例えば 10 代の 1 時間以上滞在者の割合が不可館は 77.7% (=33.3%+44.4%) であるのに対して許可館 は 92.3% (=30.8%+61.5%) であること、30 代の 1～2 時間未満滞在者の割合が不可館は 5.0%なのに対して許可館は 25.0%であり有意水準 0.05 で後者の方が高いこと、50 代の 2 時間以上滞在者は不可館ではいなかったのに対して許可館では 41.7%であり有意水準 0.05 で後者の方が高いことなどから、全年代において長時間滞在者は不可館よりも許可館の利用者の方が多くことが分かる。

次に、(c)来館時の人数と回答者の年代をクロス集計した結果は表 31 のようになった。

表 31. 来館時の人数と回答者の年代のクロス集計

		来館時の人数						
		N	1人	2人	3人以上	その他	無回答	
年代	全体	203	82.8%	14.8%	5.4%	0.0%	0.5%	
	許可館	13	61.5%	15.4%	23.1%	0.0%	0.0%	
	不可館	18	61.1%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
	10代	31	61.3% **	32.3% **	9.7%	0.0%	0.0%	
	許可館	14	100.0% *	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
	不可館	13	76.9%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
	20代	27	88.9%	14.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
	許可館	12	66.7%	8.3%	25.0%	0.0%	0.0%	
	不可館	20	70.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	
	30代	32	68.8% *	15.6%	21.9% **	0.0%	0.0%	
	許可館	11	100.0% *	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	不可館	15	73.3%	26.7%	6.7%	0.0%	0.0%	
	40代	26	84.6%	15.4%	3.8%	0.0%	0.0%	
	許可館	12	100.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
	不可館	8	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	50代	20	100.0% *	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	許可館	19	94.7%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	不可館	16	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
	60代	35	88.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
	許可館	22	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	不可館	10	90.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	
	70歳以上	32	93.8% *	3.1% *	0.0%	0.0%	3.1%	

表 31 から、1 人で来館する 10 代の割合は 61.3%，30 代の割合は 68.8%でありそれぞれ他の年代よりも有意水準 0.01, 0.05 で低いのにに対し、70 歳以上の割合は 93.8%であり有意水準 0.05 で高いこと、また 2 人で来館する 10 代の割合は 32.3%，3 人以上で来館する 30 代の割合は 21.9%でそれぞれ他の年代よりも有意水準 0.01 で高いことが分かる。これは学生の多い 10 代が友人と来館する、専業主婦の多い 30 代が子どもと来館する機会が多いことが結果に表れたのではないと思われる。4 章 1 節では 2 人で来館する利用者は許可館よりも不可館の方が多いことを述べたが、特に許可館・不可館の利用者間に差異があるのは 10 代と 40 代であり、それぞれ有意水準 0.05 で不可館の方が多いことが分かる。ただし 10 代に関しては、3 人以上の来館においては許可館の利用者の方が不可館よりも有意に高くなること、また 40 代を除く他の年代では複数人で許可館へ来館する利用者が一定数いることから、飲食不可が来館時の人数を増加させる要因であると結びつけることは難しいと思われる。

4.2.1.2 館内飲食に関する希望や意見

館内飲食に関する希望や意見では、(a)飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度（許可館）、(b)館内飲食の許可／不可に対する希望、(c)図書館の館内飲食方針に対する意見、の順に結果を述べる。

まず、許可館の利用者のみに尋ねた(a)飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度であるが、これまで除外してきた「飲食が許されていることを知らなかった」利用者も年代に偏りがあるかもしれない。そこで、表 32 では例外的に「飲食が許されていることを知らなかった」利用者を含めて回答者の年代とのクロス集計を行った結果を示す。

表 32. 飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度と回答者の年代のクロス集計

		許可されている飲食の館内利用						
		N	よく利用する	たまに利用する	利用しない	知らなかった	無回答	
年代	全体	180	9.4%	14.4%	31.1%	42.8%	2.2%	
	10代	21	23.8% **	19.0%	14.3% *	38.1%	4.8%	
	20代	24	20.8% *	25.0%	12.5% *	41.7%	0.0%	
	30代	25	8.0%	12.0%	28.0%	52.0%	0.0%	
	40代	28	3.6%	17.9%	17.9% *	60.7% *	0.0%	
	50代	20	10.0%	15.0%	35.0%	40.0%	0.0%	
	60代	29	6.9%	10.3%	48.3% *	34.5%	0.0%	
	70歳以上	33	0.0% *	6.1%	51.5% **	33.3%	9.1% **	

表 32 から、許可されている飲食を「よく利用する」と答えた利用者の割合は 10 代では 23.8%，20 代では 20.8% でそれぞれ有意水準 0.01 と 0.05 で他の年代よりも高いことが分かる。また 70 歳以上では許可されている飲食をよく利用する利用者はいなかったが、「利用しない」と答えた利用者の割合は 51.5%，60 代では 48.3% でありそれぞれ有意水準 0.01 と 0.05 で他の年代よりも高い。以上から、許可されている飲食を利用するのは比較的若い利用者が多いことが分かる。一方、40 代は「知らなかった」と答えた利用者の割合が 60.7% であり他の年代よりも有意水準 0.05 で高く、30 代でも 52.0% が「知らなかった」と答えており、有意差はなかったものの半数以上が飲食の許可を認知していなかった。

次に、(b)館内飲食の許可／不可に対する希望と回答者の年代をクロス集計した結果は表 33 のようになった。

表 33. 館内飲食の許可／不可に対する希望と回答者の年代のクロス集計

		館内飲食の許可／不可に対する希望						
		N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	許可して欲しくない	その他	無回答
年代	全体	203	19.7%	41.9%	0.0%	30.5%	6.9%	1.0%
	許可館	13	30.8%	46.2%	0.0%	23.1%	0.0%	0.0%
	不可館	18	44.4%	38.9%	0.0%	11.1%	5.6%	0.0%
	10代	31	38.7% **	41.9%	0.0%	16.1% *	3.2%	0.0%
	許可館	14	14.3%	85.7% *	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不可館	13	15.4%	46.2%	0.0%	38.5% **	0.0%	0.0%
	20代	27	14.8%	66.7% **	0.0%	18.5%	0.0%	0.0%
	許可館	12	16.7%	58.3%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	不可館	20	10.0%	50.0%	0.0%	25.0%	10.0%	5.0%
	30代	32	12.5%	53.1%	0.0%	25.0%	6.3%	3.1%
	許可館	11	27.3%	63.6% *	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%
	不可館	15	13.3%	26.7%	0.0%	40.0% *	20.0%	0.0%
	40代	26	19.2%	42.3%	0.0%	26.9%	11.5%	0.0%
	許可館	12	16.7%	50.0%	0.0%	25.0%	8.3%	0.0%
	不可館	8	25.0%	37.5%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
	50代	20	20.0%	45.0%	0.0%	30.0%	5.0%	0.0%
	許可館	19	21.1%	26.3%	0.0%	47.4%	5.3%	0.0%
	不可館	16	25.0%	18.8%	0.0%	43.8%	12.5%	0.0%
	60代	35	22.9%	22.9% **	0.0%	45.7% *	8.6%	0.0%
	許可館	22	9.1%	36.4%	0.0%	45.5%	4.5%	4.5%
	不可館	10	10.0%	10.0%	0.0%	50.0%	30.0% *	0.0%
	70歳以上	32	9.4%	28.1% *	0.0%	46.9% *	12.5%	3.1%

表 33 から、10 代は「飲食どちらも許可して欲しい」利用者の割合が 38.7%であり、他の年代よりも有意水準 0.01 で高く、20 代は「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合が 66.7%であり他の年代よりも有意水準 0.01 で高い一方、60 代と 70 歳以上は「許可して欲しくない」利用者の割合がそれぞれ 45.7%、46.9%であり、どちらも他の年代よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。年代が上がるにつれ「許可して欲しくない」利用者が多くなっていることは、従来日本の図書館で飲食が禁止とされてきた背景を反映していると考えられる。また、20 代と 40 代では「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合は不可館よりも許可館の利用者の方が有意に高く、「許可して欲しくない」利用者は許可館よりも不可館の利用者の方が有意に高く、許可館・不可館の利用者間での差が顕著であった。

次に、(c)図書館内の飲み物の方針に対する意見、食べ物の方針に対する意見と回答者の年代をクロス集計した結果は表 34、表 35 のようになった。

表 34. 飲み物の方針に対する意見と回答者の年代のクロス集計

		飲み物の方針に対する意見							
		N	全範囲で飲めるようにした方が 良い	一部の範囲で飲めるようにした方が 良い	禁止した方が 良い	その他	無回答		
年代	全体	203	22.7%	63.1%	11.3%	1.5%	1.5%		
	許可館	13	53.8%	38.5%	7.7%	0.0%	0.0%		
	不可館	18	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%		
	10代	31	41.9% **	54.8%	3.2%	0.0%	0.0%		
	許可館	14	50.0% **	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	不可館	13	7.7%	92.3% **	0.0%	0.0%	0.0%		
	20代	27	29.6%	70.4%	0.0% *	0.0%	0.0%		
	許可館	12	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	不可館	20	30.0%	60.0%	5.0%	0.0%	5.0%		
	30代	32	28.1%	65.6%	3.1%	0.0%	3.1%		
	許可館	11	27.3% *	63.6%	0.0%	9.1%	0.0%		
	不可館	15	0.0%	86.7%	6.7%	6.7%	0.0%		
	40代	26	11.5%	76.9%	3.8%	7.7% **	0.0%		
	許可館	12	35.0%	66.7%	8.3%	0.0%	0.0%		
	不可館	8	0.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%		
	50代	20	15.0%	75.0%	10.0%	0.0%	0.0%		
	許可館	19	21.1%	47.4%	26.3%	5.3%	0.0%		
	不可館	16	18.8%	62.5%	18.8%	0.0%	0.0%		
	60代	35	20.0%	54.3%	22.9% **	2.9%	0.0%		
	許可館	22	4.5%	68.2% **	18.2%	0.0%	9.1%		
	不可館	10	20.0%	20.0%	60.0% **	0.0%	0.0%		
	70歳以上	32	9.4% *	53.1%	31.3% **	0.0%	6.3% **		

表 35. 食べ物の方針に対する意見と回答者の年代のクロス集計

		食べ物の方針に対する意見										
		N	全範囲で食べられるようにした方が 良い		一部の範囲で食べられるようにした 方が良い		禁止した方が 良い		その他		無回答	
年代	全体	203	5.4%		55.7%		32.5%		2.5%		3.9%	
	許可館	13	15.4%		53.8%		30.8%		0.0%		0.0%	
	不可館	18	11.1%		77.8%		11.1%		0.0%		0.0%	
	10代	31	12.9%	*	67.7%		19.4%	*	0.0%		0.0%	
	許可館	14	7.1%		78.6%		14.3%		0.0%		0.0%	
	不可館	13	0.0%		76.9%		23.1%		0.0%		0.0%	
	20代	27	3.7%		77.8%	**	18.5%	*	0.0%		0.0%	
	許可館	12	0.0%		66.7%		33.3%		0.0%		0.0%	
	不可館	20	0.0%		70.0%		25.0%		0.0%		5.0%	
	30代	32	0.0%		68.8%		28.1%		0.0%		3.1%	
	許可館	11	18.2%	□	45.5%		18.2%		18.2%	□	0.0%	
	不可館	15	0.0%		53.3%		46.7%		0.0%		0.0%	
	40代	26	7.7%		50.0%		34.6%		7.7%	*	0.0%	
	許可館	12	8.3%		75.0%	□	16.7%		0.0%		0.0%	
	不可館	8	0.0%		37.5%		37.5%		12.5%		12.5%	
	50代	20	5.0%		60.0%		25.0%		5.0%		5.0%	
	許可館	19	5.3%		42.1%		42.1%		5.3%		5.3%	
	不可館	16	12.5%		43.8%		37.5%		0.0%		6.3%	
	60代	35	8.6%		42.9%	*	40.0%		2.9%		5.7%	
	許可館	22	0.0%		36.4%		50.0%		0.0%		13.6%	
	不可館	10	0.0%		10.0%		70.0%		10.0%		10.0%	
	70歳以上	32	0.0%		28.1%	**	56.3%	**	3.1%		12.5%	*

表 34 から、「全範囲で飲めるようにした方が良い」と答えた利用者の割合は 10 代が 41.9% であり、他の年代よりも有意水準 0.01 で高いことが分かる。先述したように飲食を許可して欲しくない利用者が多かった 60 代と 70 歳以上は、飲み物の方針に関しても「禁止した方が良い」と答えた利用者の割合が多く、それぞれ 22.9%と 31.3%でどちらも他の年代より有意水準 0.01 で高い。ただし 70 歳以上の利用者の内訳は不可館が 60.0%であり許可館の 18.2%よりも有意水準 0.01 で高く、一方で「一部の範囲で飲めるようにした方が良い」と答えた利用者の割合は不可館の 20.0%に対して許可館は 68.2%であり有意水準 0.01 で高く、許可館・不可館の利用者間の差が顕著であった。また、飲み物だけ許可して欲しい利用者の割合が他の年代よりも有意に高かった 20 代では、「全範囲で飲めるようにした方が良い」利用者の割合は許可館が 50.0%で不可館の 7.7%よりも有意水準 0.01 で高く、「一部の範囲で飲めるようにした方が良い」利用者の割合は不可館が 92.3%で許可館の 50.0%よりも有意水準 0.01 で高いことが分かり、許可館・不可館の利用者間で飲める場所に対する差異が見られた。他に差異が見られた年代としては、40 代の「全範囲で飲めるようにした

方が良い」と答えた不可館の利用者がいなかったのに対し許可館は 27.3%であり有意水準 0.05 で高かったことが挙げられる。表 35 から、「全範囲で食べられるようにした方が良い」と答えた利用者の割合が多かったのは 10 代が 12.9%で他の年代よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。また、20 代は「一部の範囲で食べられるようにした方が良い」利用者の割合が 77.8%，70 歳以上は「禁止した方が良い」利用者の割合が 56.3%でそれぞれ他の年代よりも有意水準 0.01 で高かった。40 代の「全範囲で食べられるようにした方が良い」と答えた不可館の利用者がいなかったのに対し許可館は 18.2%であり有意水準 0.05 で高いことも示され、「許可した方が良い」という意見は飲み物の方針に関する意見と比べて全体的に低くなるものの、分布の仕方には似たような傾向が見られた。

4.2.2 飲食可能な種類・場所によるクロス集計

本項では、各館において飲食可能な種類・場所と各調査項目とのクロス集計の結果を述べる。先述したように、許可館の飲食方針としては(1)全範囲で飲み物のみ許可、(2)閲覧席を含む一部で飲み物のみ許可、(3)閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物のみ許可、(4)館内飲食スペースで飲食許可、の 4 種類が見られ、例えば館内の閲覧席では飲み物のみ飲めるようになっており、それに加えて別途館内飲食スペースも設けているといったように複数の飲食ルールを併用している館もあった。一方、複合施設の一角に位置している不可館では、館内での飲食は不可であるものの同施設内にカフェが併設されているため、利用者が飲食をしに行くことが比較的容易な環境となっているところもある。また、一般に複合施設では各施設を繋ぐためのエントランスホールが設けてあり、ベンチや飲み物の自動販売機を設置していることも多く、利用者が飲食する場所として用いることも可能である場合が多い。そこで、このような施設の特徴を考慮し、調査対象館において飲食可能な種類・場所を不可館も含めて以下の 7 種類に分けた。即ち、(a)館内全範囲で飲み物が飲める館、(b)館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館、(c)閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館、(d)館内飲食スペースがある館、(e)館外飲食スペースがある館、(f)飲食店がある複合施設に含まれている館、(g)飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館、の 7 種類である。ただし先述したように、館によっては上記の複数の館種に該当するところもある。例えば、飲食店のある複合施設に含まれており、かつ館内の全範囲で飲み物が飲める館は上記の(a)と(f)に該当する。次に、上記の各館種において該当する許可館（以下、該当許可館）、該当しない許可館（以下、非該当許可館）、該当する不可館（以下、該当不可館）、該当しない不可館（以下、非該当不可館）の 4 つに分け結果を比較した。得られた回答については、各調査項目の選択肢ごとに選ばれた割合を算出し、それらに関して各該当・非該当館との間で母比率の差の検定を行い、有意性を検証した。以下では(1)図書館の利用方法、(2)館内飲食に関する希望や意見、の順に結果を述べる。

4.2.2.1 図書館の利用方法

図書館の利用方法では(a)利用頻度, (b)滞在時間, (c)来館時の人数, の順に結果を述べる。

まず, (a)図書館の利用頻度と飲食可能な種類・場所をクロス集計した結果, ほぼ毎日利用している利用者に有意差が見られた館種は(1)館内全範囲で飲み物が飲める館, (2)館外飲食スペースがある館, (3)飲食店のある複合施設に含まれている館, であり, それぞれ表 36～表 38 のようになった。

表 36. 図書館の利用頻度と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館内全範囲で飲み物が飲める館)

		図書館の利用頻度							
		N	ほぼ毎日	週2～3回程度	週1回程度	月2～3回程度	月1回程度	年数回程度	今回が初めて
飲食方針	全体	203	8.9%	25.6%	21.2%	25.1%	8.4%	8.9%	2.0%
	館内全範囲で飲み物が飲める館	21	23.8%*	28.6%	19.0%	23.8%	4.8%	0.0%	0.0%
	上記以外の許可館	82	6.1%	25.6%	24.4%	26.8%	8.5%	6.1%	2.4%
	不可館	100	8.0%	25.0%	19.0%	24.0%	9.0%	13.0%*	2.0%

表 37. 図書館の利用頻度と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館外飲食スペースがある館)

		図書館の利用頻度							
		N	ほぼ毎日	週2～3回程度	週1回程度	月2～3回程度	月1回程度	年数回程度	今回が初めて
飲食方針	全体	203	8.9%	25.6%	21.2%	25.1%	8.4%	8.9%	2.0%
	館外飲食スペースがある館(館内許可館)	22	13.6%*	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%	4.5%	0.0%
	上記以外の館内許可館	81	8.6%	25.9%	22.2%	28.4%	7.4%	4.9%	2.5%
	館外飲食スペースがある館(館内不可館)	40	2.5%	30.0%	20.0%	25.0%	5.0%	17.5%*	0.0%
	上記以外の館内不可館	60	11.7%	21.7%	18.3%	23.3%	11.7%	10.0%	3.3%

表 38. 図書館の利用頻度と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(飲食店のある複合施設に含まれている館)

		図書館の利用頻度							
		N	ほぼ毎日	週2～3回程度	週1回程度	月2～3回程度	月1回程度	年数回程度	今回が初めて
飲食方針	全体	203	8.9%	25.6%	21.2%	25.1%	8.4%	8.9%	2.0%
	飲食店のある複合施設に含まれている館(館内許可館)	23	17.4%*	34.8%	13.0%	30.4%	4.3%	0.0%	0.0%
	上記以外の館内許可館	80	7.5%	23.8%	26.3%	25.0%	8.8%	6.3%	2.5%
	飲食店のある複合施設に含まれている館(館内不可館)	40	12.5%	20.0%	17.5%	27.5%	15.0%*	7.5%	0.0%
	上記以外の館内不可館	60	5.0%	28.3%	20.0%	21.7%	5.0%	16.7%*	3.3%

表 36 から, 館内全範囲で飲み物が飲める該当許可館ではほぼ毎日利用している利用者の割合は 23.8%であり, 非該当許可館の 6.1%, 不可館の 8.0%よりもそれぞれ有意水準 0.01, 0.05 で高いこと, 年数回利用する利用者は該当許可館ではいなかったのに対して不可館では 13.0%であり有意水準 0.05 で高いことが分かる。また表 37 から, 館外飲食スペースがある該当不可館ではほぼ毎日利用する 2.5%よりも該当許可館の 13.6%の方が有意水準 0.05 で高いこと, 非該当不可館ではほぼ毎日利用する利用者の割合は 11.7%であり該当不可館よりも有意水準 0.05 で高いこと, 加えて年数回利用する利用者の割合が該当不可館では

17.5%であり非該当許可館の 4.9%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。表 38 から、飲食店のある複合施設に含まれている該当許可館ではほぼ毎日利用する利用者の割合が 17.4%であり、非該当不可館の 5.0%よりも有意水準 0.05 で高いこと、加えて年数回利用する利用者の割合は非該当不可館では 16.7%であり、該当許可館の 0.0%、非該当許可館の 6.3%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。以上から、他よりも図書館の利用頻度を促進する可能性のある館種は(i)館内全範囲で飲み物が飲める館、(ii)館外飲食スペースがある許可館、(iii)飲食店のある複合施設に含まれている許可館、であると考えられる。

次に、(b)図書館の滞在時間と飲食可能な種類・場所をクロス集計した結果、1 時間以上滞在する利用者に有意差が見られた館種は、(1)館内全範囲で飲み物が飲める館、(2)館外飲食スペースがある館、(3)飲食店のある複合施設に含まれている館、(4)飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館、であり、それぞれ表 39～表 42 のようになった。

表 39. 図書館の滞在時間と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館内全範囲で飲み物が飲める館)

		図書館の滞在時間						
		N	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 2時間未満	2時間以上	その他	無回答
飲食 方針 針	全体	203	16.3%	34.5%	23.6%	24.6%	0.5%	0.5%
	館内全範囲で飲み物が飲める館	21	4.8%	33.3%	14.3%	47.6% *	0.0%	0.0%
	上記以外の許可館	82	19.5%	26.8%	28.0%	23.2% *	1.2%	1.2%
	不可館	100	16.0%	41.0% *	22.0%	21.0%	0.0%	0.0%

表 40. 図書館の滞在時間と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館外飲食スペースがある館)

		図書館の滞在時間						
		N	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 2時間未満	2時間以上	その他	無回答
飲食 方針 針	全体	203	16.3%	34.5%	23.6%	24.6%	0.5%	0.5%
	館外飲食スペースがある館 (館内許可館)	22	13.6%	27.3%	27.3%	31.8% *	0.0%	0.0%
	上記以外の館内許可館	81	17.3%	28.4%	24.7%	27.2% *	1.2%	1.2%
	館外飲食スペースがある館 (館内不可館)	40	7.5%	30.0%	27.5%	35.0% **	0.0%	0.0%
	上記以外の館内不可館	60	21.7% *	48.3% **	18.3%	11.7%	0.0%	0.0%

表 41. 図書館の滞在時間と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(飲食店のある複合施設に含まれている館)

		図書館の滞在時間						
		N	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 2時間未満	2時間以上	その他	無回答
飲食 方針 針	全体	203	16.3%	34.5%	23.6%	24.6%	0.5%	0.5%
	飲食店のある複合施設に含ま れている館(館内許可館)	23	17.4%	26.1%	17.4%	34.8% *	0.0%	4.3%
	上記以外の館内許可館	80	16.3%	28.8%	27.5%	26.3% *	1.3%	0.0%
	飲食店のある複合施設に含ま れている館(館内不可館)	40	25.0% *	45.0% *	17.5%	12.5% *	0.0%	0.0%
	上記以外の館内不可館	60	10.0% *	38.3%	25.0%	26.7% *	0.0%	0.0%

表 42. 図書館の滞在時間と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館)

		図書館の滞在時間						
		N	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 2時間未満	2時間以上	その他	無回答
飲食 方針	全体	203	16.3%	34.5%	23.6%	24.6%	0.5%	0.5%
	飲食店はないがエントランス ホール等がある複合施設に含 まれている館(館内許可館)	23	17.4%	26.1%	17.4%	34.8%	0.0%	4.3%
	上記以外の館内許可館	80	16.3%	28.8%	27.5%*	26.3%*	1.3%	0.0%
	飲食店はないがエントランス ホール等がある複合施設に 含まれている館(館内不可館)	40	25.0%	45.0%**	17.5%*	12.5%	0.0%	0.0%
	上記以外の館内不可館	60	10.0%	38.3%*	25.0%*	26.7%	0.0%	0.0%

表 39 から、館内全範囲で飲み物が飲める該当許可館では 2 時間以上滞在する利用者の割合が 47.6%であり、非該当許可館の 23.2%，不可館の 21.0%よりもそれぞれ有意水準 0.05，0.01 で高いことが分かる。また表 40 から、館外飲食スペースがある該当許可館では 2 時間以上滞在する利用者の割合が 31.8%であり非該当不可館の 11.7%よりも有意水準 0.05 で高く、非該当許可館の 27.2%，該当不可館の 35.0%も非該当不可館よりそれぞれ有意水準 0.05，0.01 で高いことが分かる。表 41 から、飲食店のある複合施設に含まれている館に関しては 2 時間以上滞在する利用者の割合が該当不可館の 12.5%よりも該当許可館の 34.8%，非該当許可館の 26.3%，非該当不可館の 26.7%の方がそれぞれ有意水準 0.05 で高いことが分かり、該当不可館では長時間滞在を促進する可能性は低いことが示された。また表 42 から、飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館に関しては、1 時間～2 時間未満滞在する利用者の割合が該当許可館の 17.4%よりも非該当許可館の 27.5%，該当不可館の 17.5%，非該当不可館の 25.0%の方がそれぞれ有意水準 0.05 で高いこと、また 2 時間以上滞在する利用者の割合は該当不可館の 12.5%よりも非該当許可館の 26.3%の方が高いことが示され、飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館においても利用者の長時間滞在を促進する可能性は低いことが分かる。以上から、他よりも利用者の長時間滞在を促進する可能性のある館種は(i)館内全範囲で飲み物が飲める館、(ii)館外飲食スペースがある館、であり、複合施設の一部であることが長時間滞在を促進する可能性は低いと考えられる。

次に、(c)来館時の人数と飲食可能な種類・場所をクロス集計した結果、全館種にて有意差が見られたが、特に 2 人以上の来館が有意に多かった館種は(1)館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館、(2)飲食店のある複合施設に含まれている館、であり、表 43、表 44 のようになった。

表 43. 来館時の人数と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館)

		来館時の人数						
		N	1人	2人	3人以上	その他	無回答	
飲食方針	全体	203	82.8%	14.8%	5.4%	0.0%	0.5%	
	館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館	55	85.8%	14.5% **	5.5%	0.0%	0.0%	
	上記以外の許可館	48	93.8% **	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	
	不可館	100	76.0%	22.0% **	5.0%	0.0%	1.0%	

表 44. 来館時の人数と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(飲食店のある複合施設に含まれている館)

		来館時の人数						
		N	1人	2人	3人以上	その他	無回答	
飲食方針	全体	203	82.8%	14.8%	5.4%	0.0%	0.5%	
	飲食店のある複合施設に含まれている館(館内許可館)	23	87.0%	0.0%	13.0% *	0.0%	0.0%	
	上記以外の館内許可館	80	90.0% *	10.0%	3.8%	0.0%	0.0%	
	飲食店のある複合施設に含まれている館(館内不可館)	40	77.5%	25.0% **	0.0%	0.0%	0.0%	
	上記以外の館内不可館	60	75.0%	20.0% *	8.3%	0.0%	1.7%	

表 43 から、館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める該当許可館では 2 人で来館する利用者の割合が 14.5%であり、2 人で来館する利用者がいなかった非該当許可館よりも有意水準 0.01 で高いこと、また不可館の 22.0%も非該当許可館よりも有意水準 0.01 で高いことが分かる。表 44 から、2 人で来館する利用者の割合は許可館よりも不可館の方がそれぞれ有意に高いことが分かる一方、3 人以上で来館する利用者の割合は該当許可館の 13.0%が非該当許可館の 3.8%よりも有意水準 0.05 で高く、また 3 人以上で来館する利用者がいなかった該当不可館よりも有意水準 0.01 で高いことが分かる。不可館に関しては該当不可館よりも非該当不可館の 8.3%の方が有意水準 0.05 で高かった。どの館種においても 2 人での来館は該当あるいは非該当許可館よりも不可館の利用者の方が有意に多いという結果が出ている一方、許可館において他よりも複数人での来館を促進する館種は館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館であると考えられる。また 3 人以上での来館に有意差が見られたのは飲食店のある複合施設に含まれている館のみであり、特に該当許可館で多いことが分かった。

4.2.2.2 館内飲食に関する希望や意見

館内飲食に関する希望や意見では、(a)飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度(許可館)、(b)館内飲食の許可／不可に対する希望、(c)図書館の館内飲食方針に対する意見、(d)図書館の居心地に関する満足度、の順に結果を述べる。

まず、許可館の利用者のみに尋ねた(a)飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度と飲食可能な種類・場所のクロス集計であるが、先述した年代別のクロス集計と同様に、これまで除外してきた「飲食が許されていることを知らなかった」利用者が利用している館の飲食方針には偏りがあるかもしれない。そこで、今回も例外的に「飲食が許されている

ことを知らなかった」利用者を含めて飲食可能な種類・場所とのクロス集計を行った結果を示す。有意差があった館種は閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館のみであり、結果は表 45 のようになった。

表 45. 飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度と飲食可能な種類・場所のクロス集計

(閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館)

		許可されている飲食の館内利用					
		N	よく利用する	たまに利用する	利用しない	知らなかった	無回答
飲食方針	全体	180	9.4%	14.4%	31.1%	42.8%	2.2%
	閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館	20	0.0%	5.0%	50.0%	40.0%	5.0%
	上記以外の許可館	160	10.6%	15.6%	28.8%	43.1%	1.9%

表 45 から、閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める該当許可館の飲食スペースを利用しない利用者の割合は 50.0%であり、非該当許可館の 28.8%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。なお、「飲食が許されていることを知らなかった」利用者はどの館種間でも差は見られなかったことから、飲食可能な種類・場所と利用者の認知度との関連性はあまり高くないと思われる。

次に、(b)館内飲食の許可／不可に対する希望と飲食可能な種類・場所をクロス集計した結果、全範囲で飲み物のみ許可館を除く全館種の該当館と他館の間に有意差が見られ、表 46～表 51 のようになった。

表 46. 館内飲食の許可／不可に対する希望と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館)

		館内飲食の許可／不可に対する希望					
		N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	許可して欲しくない	その他
飲食方針	全体	203	19.7%	41.9%	0.0%	30.5%	6.9%
	館内の閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館	55	14.5%	52.7%	0.0%	25.5%	5.5%
	上記以外の許可館	48	22.9%	45.8%	0.0%	31.3%	0.0%
	不可館	100	21.0%	34.0%	0.0%	33.0%	11.0%

表 47. 館内飲食の許可／不可に対する希望と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物がのめる館)

		館内飲食の許可／不可に対する希望					
		N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	許可して欲しくない	その他
飲食方針	全体	203	19.7%	41.9%	0.0%	30.5%	6.9%
	閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館	12	8.3%	41.7%	0.0%	50.0%	0.0%
	上記以外の許可館	91	19.8%	50.5%	0.0%	25.3%	3.3%
	不可館	100	21.0%	34.0%	0.0%	33.0%	11.0%

表 48. 館内飲食の許可／不可に対する希望と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館内飲食スペースがある館)

		館内飲食の許可／不可に対する希望					
		N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	許可して欲しくない	その他
飲食方針	全体	203	19.7%	41.9%	0.0%	30.5%	6.9%
	館内飲食スペースがある館	38	28.9%*	44.7%	0.0%	23.7%	0.0%
	上記以外の許可館	65	12.3%	52.3%**	0.0%	30.8%	4.6%
	不可館	100	21.0%	34.0%	0.0%	33.0%	11.0%*

表 49. 館内飲食の許可／不可に対する希望と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館外飲食スペースがある館)

		館内飲食の許可／不可に対する希望					
		N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	許可して欲しくない	その他
飲食方針	全体	203	19.7%	41.9%	0.0%	30.5%	6.9%
	館外飲食スペースがある館(館内許可館)	22	18.2%	63.6%** *	0.0%	18.2%	0.0%
	上記以外の館内許可館	81	18.5%	45.7%*	0.0%	30.9%	3.7%
	館外飲食スペースがある館(館内不可館)	40	27.5%	30.0%	0.0%	32.5%	10.0%
	上記以外の館内不可館	60	16.7%	36.7%	0.0%	33.3%	11.7%*

表 50. 館内飲食の許可／不可に対する希望と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(飲食店のある複合施設に含まれている館)

		館内飲食の許可／不可に対する希望					
		N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	許可して欲しくない	その他
飲食方針	全体	203	19.7%	41.9%	0.0%	30.5%	6.9%
	飲食店のある複合施設に含まれている館(館内許可館)	23	13.0%	43.5%	0.0%	30.4%	13.0%**
	上記以外の館内許可館	80	20.0%	51.3%*	0.0%	27.5%	0.0%
	飲食店のある複合施設に含まれている館(館内不可館)	40	22.5%	32.5%	0.0%	32.5%	10.0%**
	上記以外の館内不可館	60	20.0%	35.0%	0.0%	33.3%	11.7%**

表 51. 館内飲食の許可／不可に対する希望と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館)

		館内飲食の許可／不可に対する希望					
		N	飲食どちらも許可して欲しい	飲み物だけ許可して欲しい	食べ物だけ許可して欲しい	許可して欲しくない	その他
飲食方針	全体	203	19.7%	41.9%	0.0%	30.5%	6.9%
	飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館(館内許可館)	13	30.8%*	38.5%	0.0%	23.1%	0.0%
	上記以外の館内許可館	90	16.7%	51.1%**	0.0%	28.9%	3.3%
	飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館(館内不可館)	20	5.0%	45.0%	0.0%	35.0%	15.0%*
	上記以外の館内不可館	80	25.0%*	31.3%	0.0%	32.5%	10.0%*

表 46 から、閲覧席を含む一部で飲み物が飲める該当許可館では「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合が 52.7%であり、不可館の 34.0%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。表 47 から、閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める該当許可館では「許可して欲しくない」利用者の割合が 50.0%であり非該当許可館の 25.3%よりも有意水準 0.05

で高く、また非該当許可館は「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合が 50.5%であり、不可館の 34.0%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。表 48 からは、館内飲食スペースがある該当許可館で「どちらも許可して欲しい」利用者の割合は 28.9%であり、非該当許可館の 12.3%よりも有意水準 0.05 で高いこと、「飲み物だけ許可して欲しい」非該当許可館の利用者の割合が 52.3%であり、不可館の 34.0%よりも有意水準 0.01 で高いことが分かる。表 49 から、館外飲食スペースがある該当許可館では「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合が 63.6%であり、該当不可館の 30.0%、非該当不可館の 36.7%よりもそれぞれ有意水準 0.01, 0.05 で高いこと、該当不可館よりも非該当許可館の 45.7%の方が有意水準 0.05 で高いことが分かる。表 50 から、飲食店のある複合施設に含まれている館に関しては非該当許可館の「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合が 51.3%であり、該当不可館の 32.5%、非該当不可館の 35.0%よりもそれぞれ有意水準 0.05 で高いことが分かる。表 51 からは、飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている館では「どちらも許可して欲しい」利用者の割合が該当不可館の 5.0%よりも該当許可館の 30.8%、非該当不可館の 25.0%の方が有意水準 0.05 で高いこと、また非該当許可館の「飲み物だけ許可して欲しい」利用者の割合が 51.1%であり、非該当不可館の 31.3%よりも有意水準 0.01 で高いことが分かる。以上から、閲覧席を含む一部で飲み物が飲める館、館内飲食スペースがある館、館外飲食スペースがある許可館では現状維持の希望が多く、飲食店はないがエントランスホール等がある複合施設に含まれている許可館では食事への希望もあった。エントランスホール等では飲食することが不可能ではないものの、人の出入りが多い場所であることから専用の飲食スペースを求める声があるのではないかとと思われる。一方、閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館では、むしろ飲食禁止への希望が多いことが分かった。これに関しては、閲覧席で長時間座っていても、飲みたい時には荷物を持ってスペースへ移動する必要があることから、館内飲食のメリットがあまり感じられない利用者が多かったのではないかと考えられる。

次に、(c)飲み物の方針に関する意見と飲食可能な種類・場所をクロス集計した結果、該当館と他館との間に有意差が見られた館種は(1)館内全範囲で飲み物が飲める館、(2)閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館、(3)館外飲食スペースがある館、であり、表 52～表 54 のようになった。

表 52. 飲み物の方針に関する意見と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館内全範囲で飲み物が飲める館)

	飲み物の方針に対する意見					
	N	全範囲で飲めるようにした方が良い	一部の範囲で飲めるようにした方が良い	禁止した方が良い	その他	無回答
飲 全体	203	22.7%	63.1%	11.3%	1.5%	1.5%
食 館内全範囲で飲み物が飲める館	21	33.3%	42.9%	14.3%	9.5% ^{**}	0.0%
方 上記以外の許可館	82	25.6%	62.2%	9.8%	0.0%	2.4%
針 不可館	100	18.0%	68.0% [*]	12.0%	1.0%	1.0%

表 53. 飲み物の方針に関する意見と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館)

		飲み物の方針に対する意見					
		N	全範囲で飲めるようにした方が良い	一部の範囲で飲めるようにした方が良い	禁止した方が良い	その他	無回答
飲食方針	全体	203	22.7%	63.1%	11.3%	1.5%	1.5%
	閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館	12	8.3%	58.3%	25.0%	0.0%	8.3%
	上記以外の許可館	91	29.7%	58.2%	8.8%	2.2%	1.1%
	不可館	100	18.0%	68.0%	12.0%	1.0%	1.0%

表 54. 飲み物の方針に関する意見と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館外飲食スペースがある館)

		飲み物の方針に対する意見					
		N	全範囲で飲めるようにした方が良い	一部の範囲で飲めるようにした方が良い	禁止した方が良い	その他	無回答
飲食方針	全体	203	22.7%	63.1%	11.3%	1.5%	1.5%
	館外飲食スペースがある館(館内許可館)	22	45.5%	40.9%	13.6%	0.0%	0.0%
	上記以外の館内許可館	81	22.2%	63.0%	9.9%	2.5%	2.5%
	館外飲食スペースがある館(館内不可館)	40	17.5%	72.5%	5.0%	2.5%	2.5%
	上記以外の館内不可館	60	18.3%	65.0%	16.7%	0.0%	0.0%

表 52 から、館内全範囲で飲み物が飲める館に関しては「一部の範囲で飲めるようにした方が良い」と答えた利用者の割合が不可館 68.0%であり、該当許可館の 42.9%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。表 53 からは閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館に関して、「禁止した方が良い」と答えた利用者の割合は該当許可館では 25.0%であり、非該当許可館の 8.8%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。また表 54 から、館外飲食スペースがある館に関しては「全範囲で飲めるようにした方が良い」と答えた利用者の割合が該当許可館では 45.5%であり、非該当許可館の 22.2%、該当不可館の 17.5%、非該当不可館の 18.3%よりもそれぞれ有意水準 0.05 または 0.01 で高く、「一部の範囲で飲めるようにした方が良い」と答えた利用者の割合は非該当許可館では 63.0%、該当不可館では 72.5%、非該当不可館では 65.0%であり、該当許可館の 40.9%よりもそれぞれ有意水準 0.05 または 0.01 で高いことが分かった。また、「禁止した方が良い」と答えた利用者の割合は非該当不可館が 16.7%であり該当不可館の 5.0%よりも有意水準 0.05 で高かった。食べ物の方針に関する意見と飲食可能な種類・場所をクロス集計した結果、該当館と他館との間に有意差が見られた館種は(1)閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館、(2)館外飲食スペースがある館、であり、表 55、表 56 のようになった。

表 55. 食べ物の方針に関する意見と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館)

		食べ物の方針に対する意見					
		N	全範囲で食べられるようにした方が良い	一部の範囲で食べられるようにした方が良い	禁止した方が良い	その他	無回答
飲食方針	全体	203	5.4%	55.7%	32.5%	2.5%	3.9%
	閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館	12	8.3%	25.0%	66.7% ^{** *}	0.0%	0.0%
	上記以外の許可館	91	6.6%	58.2% [*]	27.5% [*]	3.3%	4.4%
	不可館	100	4.0%	57.0% [*]	33.0% [*]	2.0%	4.0%

表 56. 食べ物の方針に関する意見と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館外飲食スペースがある館)

		食べ物の方針に対する意見					
		N	全範囲で食べられるようにした方が良い	一部の範囲で食べられるようにした方が良い	禁止した方が良い	その他	無回答
飲食方針	全体	203	5.4%	55.7%	32.5%	2.5%	3.9%
	館外飲食スペースがある館(館内許可館)	22	9.1%	54.5%	31.8%	4.5%	0.0%
	上記以外の館内許可館	81	6.2%	54.3%	32.1%	2.5%	4.9%
	館外飲食スペースがある館(館内不可館)	40	7.5%	65.0%	20.0% [*]	2.5%	5.0%
	上記以外の館内不可館	60	1.7%	51.7%	41.7% [*]	1.7%	3.3%

表 55 から、閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物が飲める館に関しては、「一部の範囲で食べられるようにした方が良い」と答えた利用者の割合が非該当許可館では 58.2%、不可館では 57.0%であり、該当許可館の 25.0%よりもそれぞれ有意水準 0.05 で高いこと、「禁止した方が良い」と答えた利用者の割合は該当許可館では 66.7%であり、非該当許可館の 27.5%、不可館の 33.0%よりもそれぞれ有意水準 0.01, 0.05 で高いことが分かる。表 56 から、館外飲食スペースがある館では飲み物の方針と同じく「禁止した方が良い」と答えた利用者の割合が非該当不可館では 41.7%であり、該当不可館の 20.0%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。

次に、(d)図書館の居心地に関する満足度と飲食可能な種類・場所をクロス集計した結果、該当館で「大変満足」と答えた利用者が他館よりも有意に高かった館種は(1)館内全範囲で飲み物が飲める館、(2)館外飲食スペースがある館、(3)飲食店のある複合施設に含まれている館、であり、表 57～表 59 のようになった。

表 57. 図書館の居心地に関する満足度と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館内全範囲で飲み物が飲める館)

		図書館の居心地に関する満足度								
		N	大変満足	おおむね満足	どちらでもない	おおむね不満	大変不満	わからない	その他	無回答
飲食方針	全体	203	25.6%	58.1%	10.8%	1.5%	0.0%	1.5%	0.5%	2.0%
	館内全範囲で飲み物が飲める館	21	57.1% ^{** *}	33.3% [*]	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%
	上記以外の許可館	82	24.4% [*]	54.9% [*]	17.1% [*]	2.4%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%
	不可館	100	20.0%	66.0% ^{** *}	7.0% [*]	1.0%	0.0%	3.0%	0.0%	3.0%

表 58. 図書館の居心地に関する満足度と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(館外飲食スペースがある館)

	N	図書館の居心地に関する満足度							
		大変満足	おおむね満足	どちらでもない	おおむね不満	大変不満	わからない	その他	無回答
全体	203	25.6%	58.1%	10.8%	1.5%	0.0%	1.5%	0.5%	2.0%
飲食方針 館外飲食スペースがある館 (館内許可館)	22	36.4% *	54.5%	9.1% *	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
上記以外の館内許可館	81	29.6%	49.4%	16.0% **	2.5%	0.0%	0.0%	1.2%	1.2%
館外飲食スペースがある館 (館内不可館)	40	17.5%	77.5% *	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%
上記以外の館内不可館	60	21.7%	58.3%	11.7% *	1.7%	0.0%	5.0% *	0.0%	1.7%

表 59. 図書館の居心地に関する満足度と飲食可能な種類・場所のクロス集計
(飲食店のある複合施設に含まれている館)

	N	図書館の居心地に関する満足度							
		大変満足	おおむね満足	どちらでもない	おおむね不満	大変不満	わからない	その他	無回答
全体	203	25.6%	58.1%	10.8%	1.5%	0.0%	1.5%	0.5%	2.0%
飲食店のある複合施設に含ま れている館(館内許可館)	23	43.5% *	47.8%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%
上記以外の館内許可館	80	27.5%	51.3%	17.5% *	2.5%	0.0%	0.0%	1.3%	
飲食店のある複合施設に含ま れている館(館内不可館)	40	20.0%	62.5%	7.5%	2.5%	0.0%	5.0% *	0.0%	2.5%
上記以外の館内不可館	60	20.0%	68.3% *	6.7%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	3.3%

表 57 から、館内全範囲で飲み物が飲める館に関して該当許可館で「大変満足」と答えた利用者の割合は 57.1%であり、非該当許可館の 24.4%、不可館の 20.0%よりもそれぞれ有意水準 0.01 で高いことが分かる。表 58 から、館外飲食スペースがある該当許可館で「大変満足」と答えた利用者の割合が 36.4%であり該当不可館の 17.5%よりも有意水準 0.05 で高いことが分かる。また表 59 から、飲食店のある複合施設に含まれている該当許可館では「大変満足」と答えた利用者の割合が 43.5%であり、該当不可館、非該当不可館の 20.0%よりもそれぞれ有意水準 0.05 で高いことが分かる。「大変満足」が他よりも有意に多かった上記 3 つの館種は先述した利用頻度や滞在時間においても他より多い傾向があり、満足度の高さは利用者の図書館利用を促進する可能性がある。

4.3 飲食方針の周知方法

本節では許可館における飲食方針の周知方法の結果を示す。先述したように、許可館 9 館の飲食方針としては、(1)全範囲で飲み物のみ許可、(2)閲覧席を含む一部で飲み物のみ許可、(3)閲覧席から離れた館内特定のスペースで飲み物のみ許可、(4)館内飲食スペースで飲食許可、が見られ、例えば館内の閲覧席では飲み物のみ飲めるようになっており、それに加えて別途館内飲食スペースも設けているといったように複数の飲食ルールを併用している館も見られた。

飲食方針の記述に関しては、館内掲示・サイン、印刷版利用案内、図書館ホームページ・SNS に記されている内容の要素を以下の 6 つに分類した。即ち、(a)「蓋付きの飲み物のみ飲むことができます」「こちらの休憩スペースでは飲食が可能です」などの主に方針上許可しているものを伝える表記（以下、許可表記）、(b)「食事はできません」「指定の場所以外

での飲食は禁止です」などの主に方針上禁止しているものを伝える表記（以下、禁止表記）、(c)蓋付きの飲み物が許可されているはずのエリアに「飲食禁止」という貼り紙があるなどの方針上許可されているはずのものが禁止になっていると捉えられる表記（以下、誤認表記）、(d)「飲まない時はカバンへしまってください」などの許可されているものの取り扱い方の表記（以下、取扱表記）、(e)「こぼさないようご注意ください」「座って飲みましょう」などの飲食時の注意喚起に関する表記（以下、注意表記）、(f)「万一こぼした場合はスタッフにお知らせください」などのこぼした場合の対処方法に関する表記（以下、対処表記）の6つである。

以下では許可館9館を仮にA館～I館とし、(i)館内掲示・サイン、(ii)印刷版利用案内、(iii)図書館ホームページ・SNS、の順に結果を述べる。なお、結果の表に“i”を付与している館はE、G、I館は館内に飲食スペースを設けており、“o”を付与しているB、F館は館外に独自の飲食スペースを設けている館である。

4.3.1 館内掲示・サイン

館内掲示・サインに関しては、各館の入口を含む敷地内における掲示物やサインを対象に飲食方針に関する表記の数と内容を調査した。結果として、アンケート調査の「(19)飲食スペース／許可されている飲食の利用頻度」にて「飲食が許されていることを知らなかった」と答えた利用者を除いた飲食方針認知利用者の比率と各館の掲示・サインにおける飲食方針に関する表記の内容ごとの数は表60、表記の場所ごとの数は表61のようになった。なお、各館の面積やフロア数が掲示・サイン数に影響を及ぼしている可能性を考慮し、それぞれ100㎡あたりの数に換算した。

表 60. 許可館の飲食方針に関する掲示・サインの表記内容ごとの数

	飲食方針 認知利用者	許可表記	禁止表記	誤認表記	取扱表記	注意表記	対処表記	合計
A館	65.0%	0.05	0.53	4.04	0.00	0.00	0.00	4.62
B館 ^o	40.0%	0.41	0.41	0.00	0.00	0.00	0.00	0.81
C館	50.0%	0.00	1.85	1.64	1.53	0.00	0.00	5.02
D館	40.0%	0.06	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.24
E館 ⁱ	50.0%	1.20	1.23	0.00	0.81	0.70	0.00	3.94
F館 ^o	70.0%	0.63	1.67	0.04	1.15	0.52	0.44	4.44
G館 ⁱ	65.0%	0.86	1.47	0.26	0.86	0.00	0.00	3.45
H館	60.0%	0.30	0.41	0.07	0.00	0.00	0.00	0.78
I館 ⁱ	75.0%	0.10	0.52	0.00	0.05	0.00	0.00	0.67

表 61. 許可館の飲食方針に関する掲示・サインの場所ごとの数

	飲食方針 認知利用者	閲覧席 机上	書架の柱 壁	飲食・休憩 スペース	入口 ロビー	カウンター	児童 コーナー	学習室	参考室 その他	合計
A館	65.0%	2.56	0.48		0.10	0.00	1.06	0.41	0.00	4.62
B館 ^o	40.0%	0.00	0.09	0.72	0.00	0.00	0.00		0.00	0.81
C館	50.0%	2.89	1.27		0.18	0.08	0.10		0.49	5.02
D館	40.0%	0.00	0.06		0.00	0.00	0.18		0.00	0.24
E館 ⁱ	50.0%	3.24	0.67	0.03	0.00	0.00	0.00		0.00	3.94
F館 ^o	70.0%	1.41	1.37	0.15	0.89	0.11	0.26		0.26	4.44
G館 ⁱ	65.0%	0.43	2.93	0.00	0.00	0.00	0.09		0.00	3.45
H館	60.0%	0.00	0.48		0.22	0.00	0.00		0.07	0.78
I館 ⁱ	75.0%	0.00	0.16	0.00	0.10	0.00	0.26	0.16	0.00	0.67

表 60 から、表記数の合計は 100 m²あたり 0.24 枚から 5.02 枚までばらつきがあり、1.0 枚以上ある A、C、E、F、G 館では飲食方針の認知度も比較的高い傾向があることが分かる。利用者の認知度が最も高かった I 館では飲食方針の表記数はあまり多くなかったものの、館内に飲食スペースを設けている館のため認知度が高かったのではないと思われる。また、認知度が低かった B 館と D 館では表記数も少ない傾向があった。内容としては、全ての館において許可表記よりも禁止表記の方が多いためまたは同じである傾向があり、「飲食禁止、ただし蓋付きの飲み物のみ許可」のように禁止表記の後に許可表記をただし書きで記す形式も散見された。加えて、許可されているはずである場所に禁止と捉えられる表記があるなどの誤認表記も A、C、F、G、H 館の 5 館で見られ、館内飲食許可の周知に対してあまり積極的ではない館もある可能性が示された。許可表記のある館では利用者の「健康を配慮」するためや「熱中症対策」のために許可しているという理由が書かれている表記が見られた。注意表記や対処表記などは少数であり、それぞれ E、F 館の 2 館と F 館 1 館で見られた。表記の方法としては紙に文章で記されているもの、文章とイラストを併用しているもの、イラストのみのもの、など様々であった。

表 61 から、飲食方針の表記場所としては全ての館において一般向けの書架や柱、壁などに貼られている表記が見られた。児童コーナーでは、それぞれ子どもが読めるよう平仮名での表記やカラフルなイラストでの表記が多く見られた。閲覧席・机上に表記があったのは A、C、E、F、G 館の 5 館で、三角型のカード立てや両面用のサインホルダーなどに表記のある紙を入れ、各机上に置いておく形式が見られた。入口・ロビーなどの来館者が必ず通る場所に表記がある館は A、C、F、H、I 館の 5 館とあまり多くはなかったが、利用者の認知度は比較的高い傾向があった。

4.3.2 印刷版利用案内

印刷版利用案内に関しては、来館することで入手できる一般向けの利用案内を対象に飲食方針に関する表記の有無を調査した。結果として、許可館 9 館中、飲食方針を利用案内に表記している館は館内全範囲で許可している館 2 館（A 館、B 館）、一部の範囲で許可している館 2 館（C 館、D 館）の合計 4 館であった。場所と内容としてはそれぞれ、A 館では「図書館からのお願い」の項目に禁止表記、B 館では「利用にあたって」の項目に禁止表

記と許可表記，C 館では「図書館からのお願い」の項目に誤認表記，D 館では「図書館からのお願い」の項目に禁止表記と許可表記があった。全体的に利用案内に飲食方針を記す館は少数派であり，表記のある館では利用者へ「お願い」として飲食に関する禁止事項を記している形式がよく見られ，一部でも許可している部分があるはずだが基本的に館内飲食は禁止であると捉えられる誤認表記も見られた。

4.3.3 図書館ホームページ・SNS

図書館ホームページ・SNS に関しては，各館のホームページとホームページ内にリンクが貼られている SNS を対象に飲食方針に関する表記の有無を調査した。結果として，許可館 9 館中，飲食方針を図書館ホームページに表記している館は全範囲で許可している館 2 館（A 館，B 館），一部の範囲で許可している館 2 館（F 館，H 館）の合計 4 館であった。また，ホームページに SNS へのリンクが貼られている SNS 活用館は 1 館，他にブログ活用館が 1 館あったが，どちらも飲食方針に関する表記は見られなかった。図書館ホームページで見られた表記の場所と内容としてはそれぞれ，A 館では「HOME」に許可表記と取扱表記，「Q&A」の項目に誤認表記，B 館では「利用にあたって」の項目に誤認表記，F 館では「よくある質問」の項目に誤認表記，H 館では「よくある質問」の項目に許可表記，禁止表記と取扱表記があった。印刷版利用案内と同様に，図書館ホームページに飲食方針を記す館は少数派であり，SNS はそれ自体を活用する館がほとんどなかった。表記のある館では利用者からの質問に対する回答という形式がよく見られ，誤認表記は印刷版利用案内よりも多く見られた。

5. 考察

以下では，初めに提示した 3 つの仮説(1)不可館の利用者よりも許可館の利用者の方が図書館の利用が多い，(2)中高齢者層よりも若年者層の方が館内飲食に寛容であり飲食希望者も多い，(3)許可館は飲食方針の周知を掲示やホームページなどで行っており，利用者の認知度も高い，に関して考察を加える。

まず(1)だが，結果から週 1 回以上図書館を利用する利用者の割合は許可館で 59.2%，不可館で 52.0%，図書館に 1 時間以上滞在する利用者の割合は許可館で 53.4%，不可館で 43.0%であり，不可館よりも許可館の利用者の方が利用頻度，滞在時間ともに多い傾向があることなどから，仮説は支持されたと考えられる。さらに館内全範囲で飲み物が飲める館，館外飲食スペースがある館，飲食店のある複合施設に含まれている許可館では他よりも有意に利用者の利用頻度や滞在時間が多いことも分かった。館種によって違いがあった要因としては「館内飲食の許可／不可に対する希望」では「食べ物だけ許可して欲しい」と答えた利用者はいなかったことや「図書館の館内飲食方針に対する意見」では館内で飲み物を許可して欲しい利用者は許可館で 85.5%，不可館で 86.0%であるのに対し，食べ物を許

可して欲しい利用者は許可館で 61.2%，不可館で 61.0%であったように，利用者は館内で飲むことに比べて食べることに關しては消極的な意見が多かったことから，館外に出れば専用の飲食スペースや飲食店がある館種において利用頻度や滞在時間が多い傾向が見られたのかもしれない。

次に(2)に關しては，結果から 10 代の「飲食どちらも許可して欲しい」利用者の割合が 38.7%であり，他の年代よりも有意水準 0.01 で高かったことが分かった。また飲み物／食べ物の方針に關しても「全範囲で飲めるようにした方が良い」利用者の割合が 41.9%であり，他の年代よりも有意水準 0.01 で高いこと，「全範囲で食べられるようにした方が良い」利用者の割合は 12.9%で他の年代よりも有意水準 0.05 で高かったことから，仮説は支持されたと考えられる。一方，「一部の範囲で飲めるようにした方が良い」は全年代で多かったものの，実際には館内で飲める場所を限定しない館種（館内全範囲で飲み物が飲める館）で利用者の利用頻度や滞在時間が多い傾向が顕著であった。これは，飲みたいと思った場所の飲食方針をわざわざ調べる必要がない，図書館職員に飲む場所について注意されることはないといった心理的負担の軽減が關係しているかもしれない。庄司と小島³⁵⁾の研究でも，図書館の「堅苦しい」イメージは利用を阻害する要因であることを述べており，飲める場所が限定されないことは利用者の心理的負担を軽減している可能性もあることが考えられる。

最後に(3)に關しては，結果から，仮説に反して許可館において飲食方針を「知らなかった」利用者が 42.8%いることが分かった。中でも 40 代は「知らなかった」と答えた利用者の割合が 60.7%であり他の年代よりも有意水準 0.05 で高く，30 代でも半数以上の利用者が認知していなかったことから，今後飲食方針を周知していく際には彼らを標的とすることが有効であるかもしれない。許可館における飲食方針の周知方法としては，館内書架の柱や壁に掲示またはサインで示す方法が取られることが多く，印刷版利用案内や図書館ホームページ・SNS を用いる館は少数派であった。利用者の認知度が比較的高い図書館では共通して入口やロビーへの掲示が見られ，多くの利用者の通り道に掲示しておくことは有効である可能性が示唆された。表記に關しては禁止である部分を示す表記が多数であり，許可は「ただし書き」としている館，許可であるはずの部分が禁止と捉えられるような誤認表記がある館など飲食方針の周知にあまり積極的ではない館もあることが明らかとなった。許可館の許可表記の中には利用者の「健康を配慮するため」に飲食を許可し始めた旨を記した館もあったが，飲食許可を認知している利用者は一部で良いのであろうか。図書館員の懸念要素となりがちな資料汚損に關しては，結果から飲食による汚損はあまり多くないことが示された。加えて，調査対象館の中には館内では蓋つきの飲み物のみ許可しているところや，横浜市立図書館³⁶⁾などのように資料貸出の際にビニール製の袋を渡し雨や飲食物の漏れなどによる汚損を防止する策を講じているところもあるなど資料汚損の対策が考えられており，飲食による汚損は危惧するほどではないように思われる。一方で従来の飲食禁止方針を常識としてきた層にとっては，図書館からのインプットがなければ許可方

針を認知することは難しいであろう。今後、許可館においては利用者の健康を配慮したより良い周知方法を期待したい。

6. 結論

本研究では、(1)公共図書館における飲食に対する利用者の意識や図書館の利用実態、(2)許可館と不可館間におけるそれらの差異、(3)許可館の飲食方針の周知方法の実態と利用者の飲食方針の認知度、の3つを明らかにすることを目的として茨城県、東京都、千葉県の市区立図書館から14館を無作為抽出し、各館20名の利用者を対象としたアンケート調査及び許可館を対象とした飲食方針の周知方法調査を行った。調査結果から、(a)館内全範囲で飲み物が飲める方針にする、(b)館外飲食スペースを設置する、(c)飲食店のある複合施設に含まれていれば館内で飲み物が飲める方針にする、などを行うことは年代を問わず利用者の長時間滞在を促進させ、10代に関しては利用頻度も向上させる可能性があることが分かった。また、利用者の多くが館内の一部でも飲み物または食べ物の摂取の許可を希望しており、飲食によって資料汚損をした人は少数派であることも分かった。一方許可館の飲食方針を知らない利用者が一定数いること、図書館において飲食方針の周知があまり積極的に行われていないことも示された。

さて本調査は図書館に来館した利用者を対象に行ったが、館内飲食の許可は普段図書館を利用しない利用者にとって来館のきっかけになるかもしれない。今後は普段図書館を利用しない非利用者層を対象にしたアンケート調査を行いたい。また、資料汚損に関しては利用者の過去の経験を尋ねたが、実際に飲食による汚損がどの程度あるかなどについては調査の範囲外であった。加えて今回は図書館の館内に注目して飲食方針を調べたが、館外に図書館がカフェを設置し飲食提供している例もある。今後このような図書館における観察調査、インタビュー調査なども行っていきたい。また、今回は各館における既存の周知方法を調べたが、表記に関する条件を揃えた上で最適な配置場所を検討するための実験的研究なども行いたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、丁寧かつ熱心なご指導を頂きました筑波大学図書館情報メディア系の辻慶太准教授に感謝の意を表します。調査の実施にあたっては、調査対象とした各図書館員の皆様を始め多くの方々にご協力頂きました。ありがとうございました。

注・参考文献

- 1) 植松貞夫. 建築から図書館をみる. 勉誠出版, 1999, 225p. (図書館・情報メディア双書, 第10巻).
- 2) 日本には, 「公立図書館のあるべき姿」を示すべき以下の4つの法律・基準がある。即ち, (1)図書館法, (2)公立図書館の任務と目標, (3)これからの図書館像, (4)図書館の設置及び運営上の望ましい基準, の4つである。これらの中には「図書館サービスの水準を達成するため(中略)必要な施設・設備を確保するものとする」などサービス提供者側にとって建築設計上必要な施設・設備に関する言及は散見されるものの, 利用者が図書館での時間をより快適に過ごすための館内環境に関する言及はほとんど見られない。
- 3) 植松貞夫, 前掲1), p. 52-53.
- 4) 植松(前掲1))は著作において, 生涯学習の場としての図書館をつくる要素として気分転換用の「飲食の場」を設けるよう述べている。
- 5) 中村早希, 三浦麻子. 飲食行動が話し合いにおけるコミュニケーション行動・主観的評価に及ぼす影響: 菓子を食べると話し合いはうまくいくのか?. 人文論究. 2014, vol. 64, no. 2, p. 59-77. 中村と三浦は, 話し合いにおける飲食行動は(1)会話者の笑顔の表出を増やしポジティブ感情の伝達を促進する, (2)集団の中であまり発言できない人の発言を促進させる, (3)話し合いのプロセスに対して肯定的な認知をもたらす, といった機能があることを示している。
- 6) Kawamoto, Marika. ; Tsuji, Keita. “Effects of Allowing Food and Drinks in Japanese Libraries,” 7th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2016). Kumamoto, 2016-07-10/14, International Institute of Applied Informatics (IIAD), 2016, p.43-48.
- 7) Lancaster, F. W. 紙からエレクトロニクスへ: 図書館・本の行方. 田屋裕之訳. 日外アソシエーツ, 1987, 273p.
- 8) 国立国会図書館. “図書館に喫茶店”. カレントアウェアネス・ポータル. 2005-08-04. <http://current.ndl.go.jp/node/2775>, (参照 2017-07-19).
- 9) これからの図書館の在り方検討協力者会議. “これからの図書館サービスの在り方”. 文部科学省. http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/giron/05080301/001/003.htm, (参照 2017-6-20).
- 10) Clement, E. ; Scott, P. A. No food, no drink, no noise. College & Research Libraries News. 1994, vol. 55, no. 2, p. 81-83.
- 11) Bancroft, J. No food, no drinks. College & Research Libraries News. 1998, vol. 59, no. 5, p. 335.
- 12) Soete, G. J. Managing food and drink in ARL libraries. SPEC Kit. 1998, no. 237, 56p.
- 13) Cranford, J. L. Survey on Food and Drink in Law Libraries. Buffalo, W.S. Hein & Co., 2002, 42p.
- 14) Reese, N. Café service in public libraries. Public Libraries. 1999, vol. 38, no. 3, p. 176-178.
- 15) Gorbe, B. B. C. Toward the “Great Good Place:” should libraries have coffee shops?. Master’s paper, School of Information and Library Science, the University of North Carolina, 2005, 45p.
- 16) Primary Research Group. The Survey of Library Cafes. 2012-13 ed., Primary Research Group, 2012, 78p.
- 17) Primary Research Group. The Survey of Library Cafes & Food Service. 2014 Edition., Primary Research Group, 2014, 74p.
- 18) JLA 図書館調査事業委員会. 数字で見る日本の図書館: その19: 飲食の設備について. 図書館雑誌. 2006, vol. 100, no. 6, p. 394-396.

-
- 19) 『薬学図書館』編集委員会. 図書館における飲食マナーアンケート集計報告および分析. 薬学図書館. 2008, vol. 53, no. 2, p. 148-165.
- 20) 寺澤裕子. 図書館環境アンケート結果. 病院図書館. 2014, vol. 33, no. 2, p. 107-112.
- 21) Kawamoto, Marika.; Tsuji, Keita, 前掲 6).
- 22) Lyons, D. B. No food, no drink-no more? : A study of food and drink policies and practices in public libraries. Public Libraries. 2000, vol. 39, no. 6, p. 338-347.
- 23) Singh, G. Evolving space: An examination of coffee shops in academic libraries. Master's paper, School of Information and Library Science, the University of North Carolina, 2002, 30p.
- 24) 近畿大学中央図書館. “近畿大学中央図書館利用アンケート 2013: 実施報告”. 近畿大学中央図書館.
http://www.clib.kindai.ac.jp/about/pdf/2013_questionnaire_result.pdf#search=%27%E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8+%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88+%E9%A3%B2%E3%81%BF%E7%89%A9+%E8%BF%91%E7%95%BF%27, (参照 2017-07-19).
- 25) 東楨典子. 学生が手がける図書館ポスター. 館灯. 2011, vol. 49, p. 26-28.
- 26) 蒲生 英博ほか. 小特集, 危機管理: 大学図書館におけるリスクマネジメント: 名古屋大学附属図書館の危機管理体制と実践. 大学図書館研究. 2007, vol. 81, p. 1-11.
- 27) 日本図書館協会. “図書館リンク集”. 日本図書館協会.
<http://www.jla.or.jp/link/tabid/95/Default.aspx>, (入手 2017-02-19).
- 28) Kawamoto, Marika.; Tsuji, Keita, 前掲 6).
- 29) Kawamoto, Marika.; Tsuji, Keita, 前掲 6).
- 30) 上岡真紀子. 特集, 利用者調査: 慶應義塾大学における利用者調査の事例. 情報の科学と技術. 2008, 58(6), p.278-284.
- 31) 『薬学図書館』編集委員会, 前掲 19).
- 32) 図書館の方針に関する掲示は来館者の目につきやすい入口などに貼られている場合があると考え, 調査対象範囲を館内に限定せず, BDS 外の入口を含む館の敷地内全体とした。
- 33) 複数回答可の設問であるため合計は 100.0%にはならないことに注意されたい。なお, その他の複数回答可の項目に関しては付録を参照して頂きたい。
- 34) ただし, 本研究では館内での資料汚損や施設・設備への汚損に関しては扱わなかった。また, 調査は各図書館で行われており, 注意されることを恐れて回答者が真実を答えなかった可能性があること, 汚損の程度は各回答者の自己判断であるため評価に差があること, などが考えられる。以上の点に関しては今後の課題としたい。
- 35) 庄司名奈恵, 小島隆矢. 公共図書館の利用阻害要因となるネガティブな印象に関する研究. 日本建築学会環境系論文集. 2012, vol. 77, no. 681, p. 829-836.
- 36) 教育委員会事務局 中央図書館企画運営課. “梅雨の時期も安心! 予算ゼロで図書貸出用手提げ袋を無料配布”. 横浜市.
<http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/201006/20100611-022-10362.html>, (参照 2017-07-22).